平成２５年度

事　業　報　告　書

学　校　法　人　　高　田　学　苑

Takada Gakuen

高田短期大学、高田高等学校、高田中学校

平成２５年４月１日～平成２６年３月３１日まで

学校法人高田学苑／平成25年度　事業報告書　　contents

1．法人の概要

建学の精神　……2

教育方針

（1）設置する学校、定員及び現員

（2）役員氏名　……3

（3）教職員数及び組織構成図　……3～4

（4）校舎敷地及び建物等の概要　……5

（5）学生・生徒志願者数推移表　……6

（6）学生・生徒在籍者数推移表　……7

（7）学生・生徒進路状況等　……8～9

2．事業実績の概要

－法人－　……10～17

（1）夏期研修

（2）教職員の福利厚生事業の充実

（3）教職員の表彰

（4）安全管理の取り組み

（5）理事会・評議員会・監事会・内部監査委員会の
　　開催状況及び監査法人監査報告

（6）教職員の異動状況

3．教育研究活動の実績

－高田短期大学－　……18～43

〈短大全体〉

（1）学士力向上を目指した教育課程の展開

（2）主体性・協調性を育む短大生活支援

（3）キャリア教育・キャリア支援の充実

（4）学生募集と高大交流事業

（5）自己点検・評価の取り組み

〈地域への社会貢献事業〉

（1）高田短期大学公開講座

（2）教員免許状更新講習

（3）Mie　保育士人材バンク「takada-jc」

（4）みえアカデミックセミナー2013　～心豊かな人生へのアクセス～

（5）大学サロンみえ

〈子ども学科〉

(1)保育に関する調査研究

(2)あのつ家庭教育支援コーディネーター養成講座

(3)学科年報

〈キャリア育成学科　オフィスワークコース、オフィス人材育成学科〉

（1）コミュニティカレッジ

（2）学生と地域の協働企画　学科プロジェクト

　Ⅰ　学生が主体となる高田短期大学オリジナル商品
　　開発プロジェクト

　Ⅱ　寺内町ボランティアガイド・サポートプロジェクト

（3）その他地域連携

　Ⅰ　学生と地域情報ボランティアによる協働講座の運営

　Ⅱ　自主プロジェクト　地域と連携した「租税教室プロジェクト」

〈キャリア育成学科　介護福祉コース、人間介護福祉学科〉

（1）コミュニティカレッジ

（2）平成25年度「高田短期大学教育研究補助事業」プロジェクト
　　（学生と地域の協働企画）

（3）学科年報

（4）卒業生のリカレントセミナー

〈仏教教育研究センター〉

（1）研究会の開催

（2）仏教教育研究センター公開講座

（3）仏教基礎講座（高田本山寄附講座）

（4）仏教専門講座（高田本山寄附講座）

〈育児文化研究センター〉

（1）地域における社会貢献事業

　Ⅰ　育児文化室　地域開放事業「おやこひろば　たかたん」

　Ⅱ　育児文化研究センター主催講演会

　Ⅲ　研究会

　Ⅳ　子育て応援隊活動

　Ⅴ　センター便り・育児文化研究紀要

　Ⅵ　関連会議

　Ⅶ　津市委託事業

～その他の学内情報～

〈ボランティア活動支援室〉

〈仏教行事委員会〉

〈図書館〉

〈施設設備の整備事業の実績及び進捗状況〉

－高田中学校・高田高等学校－　……44～55

（1）キャリア教育推進事業

（2）部活動の推進事業

（3）危機管理教育の取り組み

（4）教職員の資質向上事業

（5）きめ細やかな学習指導の推進

（6）命の大切さを考える教育の推進事業

（7）国際交流事業

（8）自己点検・評価等推進事業

（9）科学技術学習探求事業

（10）教職員海外研修事業

（11）人権教育研修の推進

（12）高田中・高等学校広報活動事業

（13）学校安全・保健計画の推進

〈施設設備整備実績及び進捗状況〉

4．財務の概要

（1）資金収支計算書の概要　……56～57

（2）消費収支計算書の概要　……58～61

（3）貸借対照表の概要　……62～63

（4）財務比率推移表　……64

（5）財産目録　……65

1　法人の概要

建学の精神

本学苑は仏教精神を基として宗教的情操を培い、人間性豊かな社会人を育成することを建学の精神としている。

教育方針

＜短期大学＞

建学の精神をふまえ、単に専門知識・技能の教授のみならず、「自分の立場や他人の立場を理解し、人や自然と優しく交わることのできる、おおらかで柔軟な思いやりのある心」を培う教育をめざしている。

＜中・高等学校＞

真宗高田派の宗門立学校として、言行忠信、表裏相応を校訓として、仏教教育による人間味の豊かさを深め、規律精神を基とした行動力の育成と基礎学力の充実錬磨につとめ、広い視野から社会に貢献できる人材の養成をめざした教育を行っている。また、中学校・高等学校一貫六年制コースを設置し、高い水準の学力と知的な生徒を育成している。

(1)設置する学校、定員及び現員

◆ 高田短期大学　　三重県津市一身田豊野195

子　ど　も　学　科

キャリア育成学科

人間介護福祉学科

◆ 高田高等学校　　三重県津市一身田町2843

◆ 高田中学校　　三重県津市一身田町2843

○高田短期大学　　（平成25年5月1日現在）

学科名	入学定員	収容定員	1年生	2年生	合　計
子　ど　も　学　科	150名	300名	160名	156名	316名
キャリア育成学科	100名	100名	81名	−	81名
（オフィスワークコース）	(60名)	(60名)	(57名)	(−)	(57名)
（介護福祉　コース）	(40名)	(40名)	(24名)	(−)	(24名)
人間介護福祉学科	−	40名	−	14名	14名
オフィス人材育成学科	−	60名	−	47名	47名
合計	250名	500名	241名	217名	458名

○高田高等学校

募集定員	収容定員	1年生	2年生	3年生	合　計
560名	1695名	640名	636名	525名	1801名

（学則定員　730名）　（3ヵ年計　2190名）

○高田中学校

募集定員	収容定員	1年生	2年生	3年生	合　計
200名	600名	203名	201名	201名	605名

（学則定員　240名）　（3ヵ年計　720名）

（2）役員氏名

＜理事　定数10名　実数9名＞　　（平成26年3月31日現在）

区　分	氏　名	現　職
第1号　宗務総長	青木　眞暁	真宗高田派　宗務総長
第2号　学苑長	髙臣　文祥	学校法人高田学苑　理事長（学苑長）
短大学長	栗原　廣海	高田短期大学　学長
中・高校長	梅林　久高	高田中・高等学校　校長
第3号　評議員	伊藤　友治	（有）平治煎餅　会長、（株）津銘菓　代表取締役
	望月　　演	（宗）真宗高田派　光圓寺住職
	井村　正勝	井村屋グループ（株）　シニア・フェロー
	永井　玲子	津家庭裁判所　調停委員
	志田　行弘	三重テレビ放送（株）代表取締役社長

＜監事　定数2名　実数2名＞

区　分	氏　名	現　職
監事	下津　和文	下津醤油（株）　代表取締役会長
監事	紀太　　允	（一社）三重県警備業協会　監事

＜評議員　定数21～25名　実数21名＞

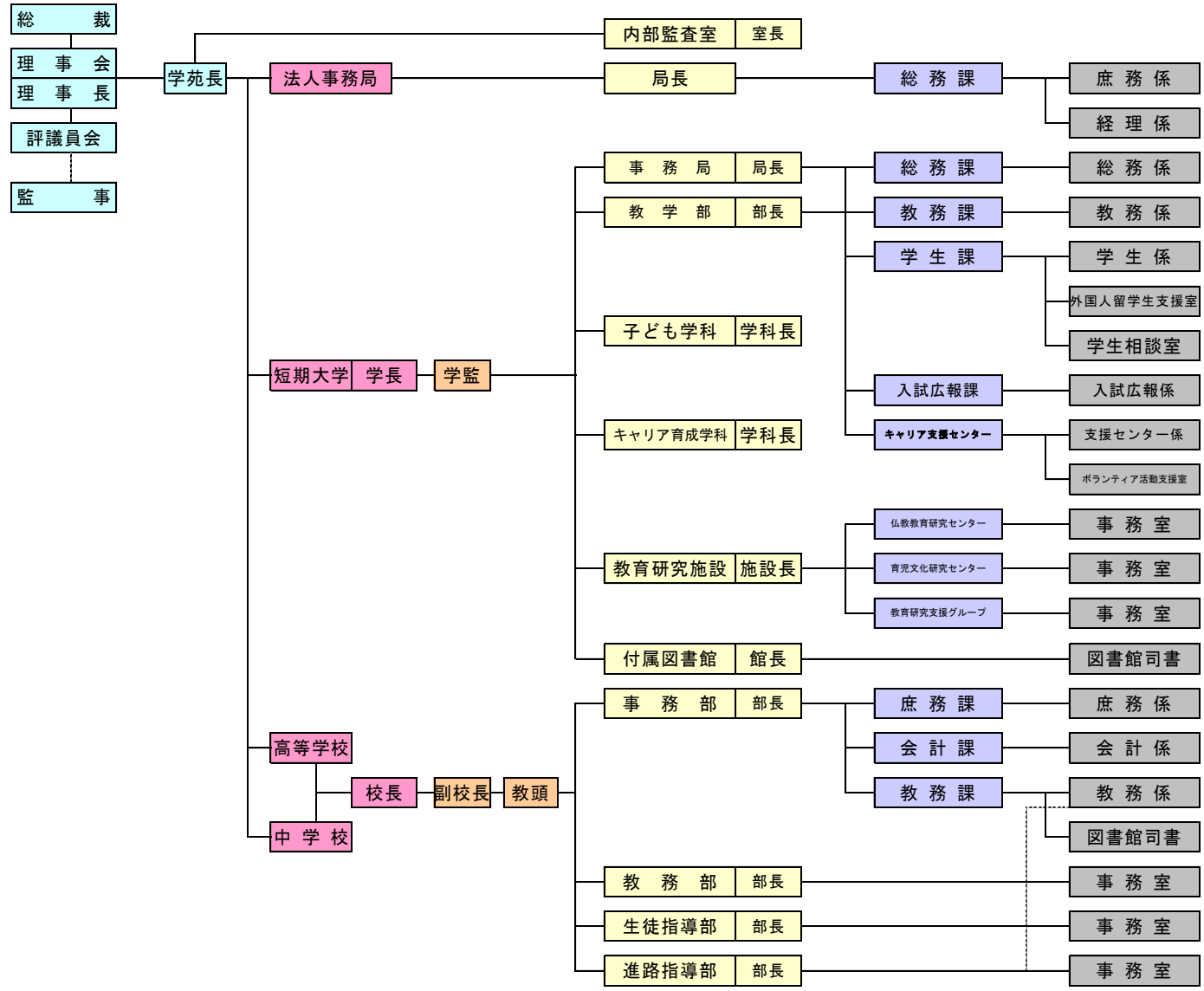
区　分	氏　名	現　職
第1号　宗務総長	青木　眞暁	真宗高田派　宗務総長
第2号　学苑長	髙臣　文祥	学校法人高田学苑　理事長（学苑長）
短大学長	栗原　廣海	高田短期大学　学長
中・高校長	梅林　久高	高田中・高等学校　校長
第3号　法人職員	山﨑　征子	高田短期大学　子ども学科長
	千草　篤麿	高田短期大学　キャリア育成学科　介護福祉コース長
	伊藤　哲哉	高田中・高等学校　副校長
	辻井　明子	高田中・高等学校　教頭
第4号　功労者	望月　　演	（宗）真宗高田派　光圓寺住職
	井村　正勝	井村屋グループ（株）　シニア・フェロー
	岩崎　克彦	医療法人思源会　常務理事
	柘植　宗隆	元高田高等学校非常勤講師
第5号　卒業者	前畑みち代	高田短期大学　育児文化研究センター客員研究員
	落合　　壽	元津市議会議員
	松田　英明	三重ヰセキ販売（株）　代表取締役社長
	倉田　栄治	（株）津ドライビングスクール　代表取締役社長
第6号　本山総務	鈴木　紀生	（宗）真宗高田派総務
第7号　学識経験者	伊藤　友治	（有）平治煎餅　会長、（株）津銘菓　代表取締役
	坪井　俊輔	弁護士　坪井法律事務所
	永井　玲子	津家庭裁判所　調停委員
	志田　行弘	三重テレビ放送（株）　代表取締役社長

（3）教職員数　　（平成25年5月1日現在）

		教　員		職　員		合　計
		本　務	兼務（嘱託・非常勤等）	本　務	兼務（嘱託・非常勤等）	
本　部		―	―	7名	0名	7名
短期大学	子ども学科	14名	34名	10名	10名	68名
	キャリア育成学科	14名	30名	7名	2名	53名
	（オフィスワークコース）	（7名）	（18名）	（5名）	（2名）	（32名）
	（介護福祉　コース）	（7名）	（12名）	（2名）	（0名）	（21名）
高等学校		95名	40名	10名	6名	151名
中学校		24名	10名	4名	0名	38名
合　計		147名	114名	38名	18名	317名

（注）学苑長は学苑本部の本務職員に、短大学長は子ども学科の本務教員に含む
　　又、短大の兼務教員数には非常勤講師の後期採用者も含む。

高 田 学 苑 組 織 構 成 図


総　裁
理 事 会
理 事 長
評議員会
監　事
学苑長
内部監査室
室長
法人事務局
局長
総 務 課
庶 務 係
経 理 係
事 務 局
局長
総 務 課
総 務 係
教 学 部
部長
教 務 課
教 務 係
学 生 課
学 生 係
外国人留学生支援室
学生相談室
子ども学科
学科長
短期大学
学長
学監
入試広報課
入試広報係
キャリア育成学科
学科長
キャリア支援センター
支援センター係
ボランティア活動支援室
仏教教育研究センター
事 務 室
教育研究施設
施設長
育児文化研究センター
事 務 室
教育研究支援グループ
事 務 室
付属図書館
館長
図書館司書
事 務 部
部長
庶 務 課
庶 務 係
会 計 課
会 計 係
高等学校
校長
副校長
教頭
教 務 課
教 務 係
中 学 校
図書館司書
教 務 部
部長
事 務 室
生徒指導部
部長
事 務 室
進路指導部
部長
事 務 室

（4） 校舎敷地及び建物等の概要

校舎敷地

区　　分		専用面積(㎡)	計面積(㎡)	所在地	権利の所属	備考
短期大学用地	校舎敷地	7,399	7,399	津市一身田豊野	自己所有	
	運動場用地	5,921	5,921	〃	〃	
	学生用駐車場用地	2,392	2,392	〃	〃	
	その他	3,279	3,279	〃	〃	緑地等
計		18,991	18,991			
上記以外の学校用地	中学校校舎敷地	1,274	1,274	津市一身田	自己所有	内　借用588㎡
	高等学校校舎敷地	15,180	15,180	〃	〃	内　借用578㎡
	中学校運動場用地	14,481	14,481	〃	〃	
	高等学校運動場用地	43,441	43,441	〃	〃	内　借用3,275㎡
	その他	4,167	4,167	〃	〃	内　借用1,663㎡
計		78,543	78,543			
合　計		97,534	97,534			
校地以外の土地		61,913	61,913	津市芸濃町河内	自己所有	山　　林

校舎等建物＜短期大学の部＞

校舎等建物面積等				
区　分	面積(㎡)	室数	構　造	権利の所属
1号館	3155.60	33	鉄筋コンクリート造陸屋根5階建	自己所有
2号館	4163.75	38	鉄筋コンクリート造陸屋根4階建	〃
3号館	1743.64	15	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
音楽棟	858.82	23	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
図書館	803.19	8	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
体育館	1983.96	15	鉄筋コンクリート造アルミニューム板葺3階建	〃
部　室	31.68	2	鉄骨造2階建	〃
その他	16.98			〃
計	12757.62	134		

校舎等建物 〈法人本部、高等学校・中学校の部〉

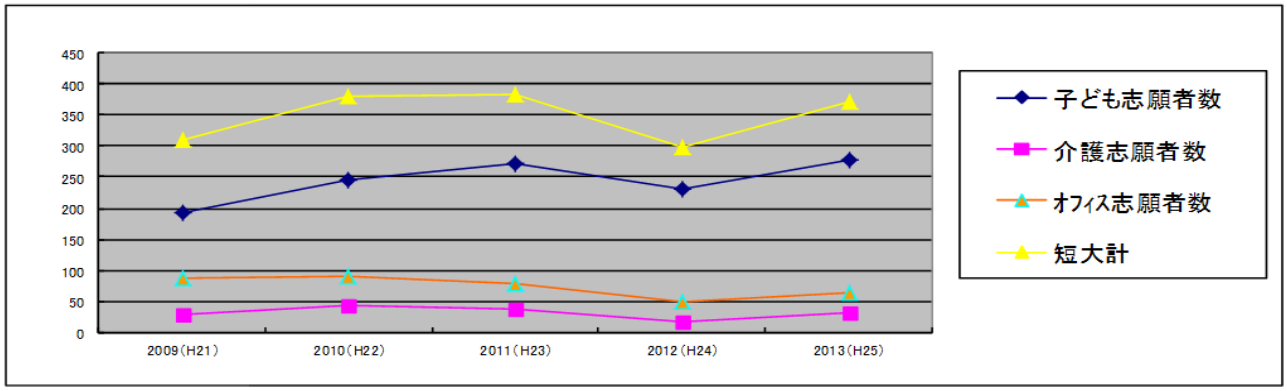
校舎等建物面積等				
区　分	面積(㎡)	室数	構　造	権利の所属
本　館	4,721.83	36	鉄筋コンクリート造陸屋根7階建	自己所有
1号館	2,722.10	25	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
2号館	2,155.05	21	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
3号館	2,609.31	13	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
4号館	3,125.59	16	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
5号館	4,113.15	29	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
管理棟1	207.23	5	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
管理棟2	98.88	4	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
厩舎棟	396.00	8	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
第1体育館	3,819.78	16	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
第2体育館	1,889.03	12	鉄筋鉄骨コンクリート造切妻屋根3階建	〃
クラブハウス	422.10	29	鉄筋コンクリート造2階建	〃
プール施設棟	337.58	2	鉄筋コンクリート造2階建	〃
施設管理棟	122.40	4	鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき平屋建	〃
その他	152.38			〃
計	26,892.41	220		
合　計	39,650.03	354		

備考(その他／機械室6.62㎡　倉庫東、西47．95㎡　渡廊下67.50㎡テニスコート部室30．31㎡)

（5） 学生・生徒志願者数推移表 （平成25年5月1日現在）

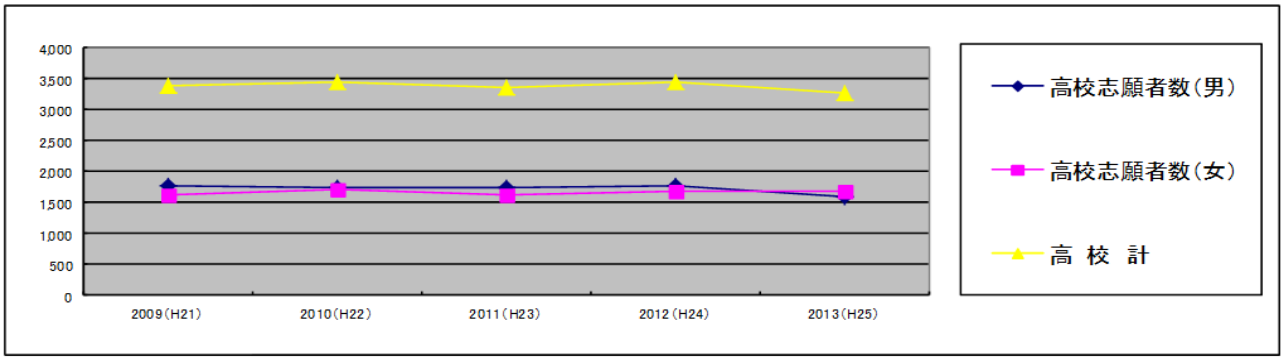
（単位：人）

高田短期大学	2009（H21）	2010（H22）	2011（H23）	2012（H24）	2013（H25）
子ども志願者数	192	247	271	231	278
介護志願者数	29	43	36	17	30
ｵﾌｨｽ志願者数	88	91	78	49	64
短　大　計	309	381	385	297	372



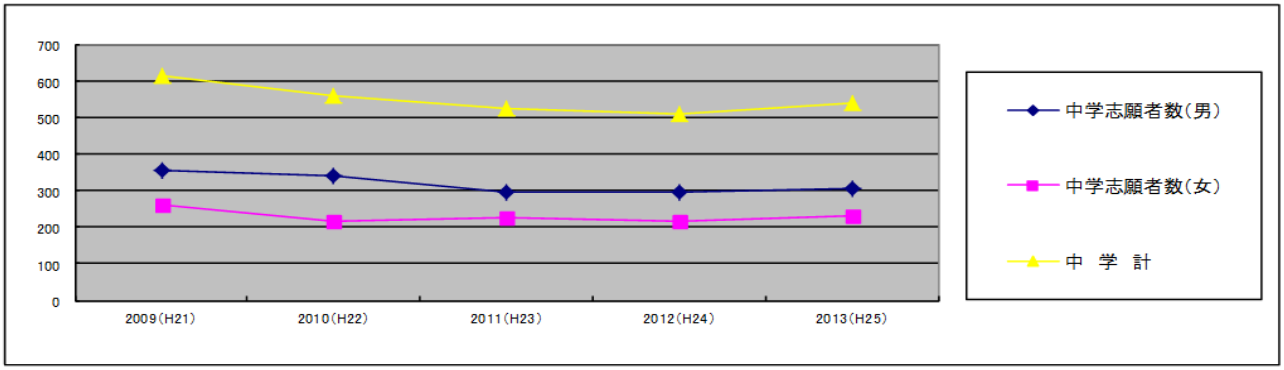
（単位：人）

高田高等学校	2009（H21）	2010（H22）	2011（H23）	2012（H24）	2013（H25）
高校志願者数（男）	1,774	1,729	1,733	1,774	1,597
高校志願者数（女）	1,612	1,706	1,613	1,676	1,678
高　校　計	3,386	3,435	3,346	3,450	3,275



（単位：人）

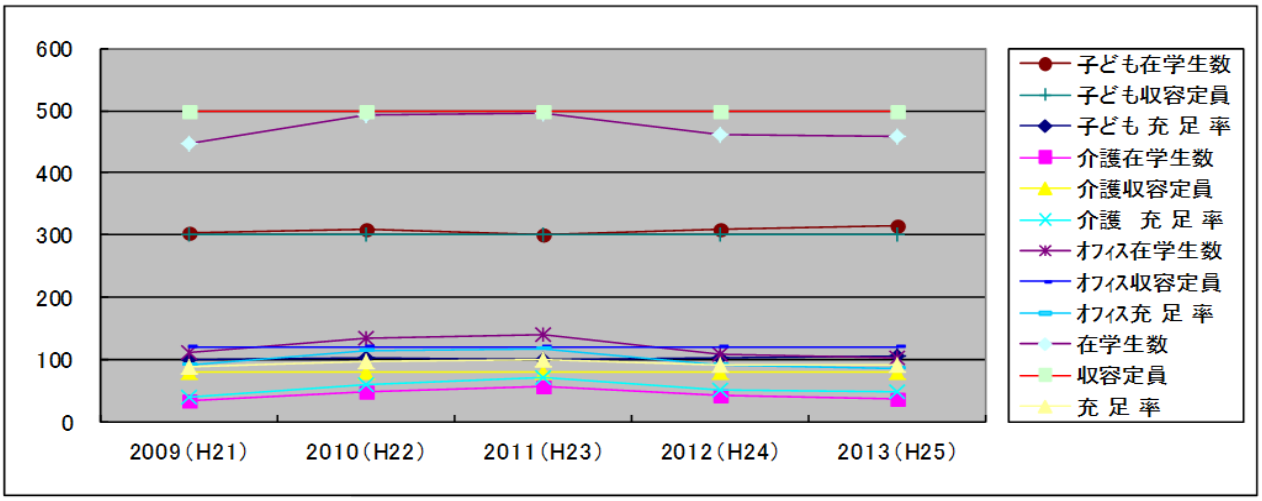
高田中学校	2009（H21）	2010（H22）	2011（H23）	2012（H24）	2013（H25）
中学志願者数（男）	355	341	296	295	308
中学志願者数（女）	260	218	228	217	231
中　学　計	615	559	524	512	539



（6） 学生・生徒在籍者数推移表（平成25年5月1日現在）

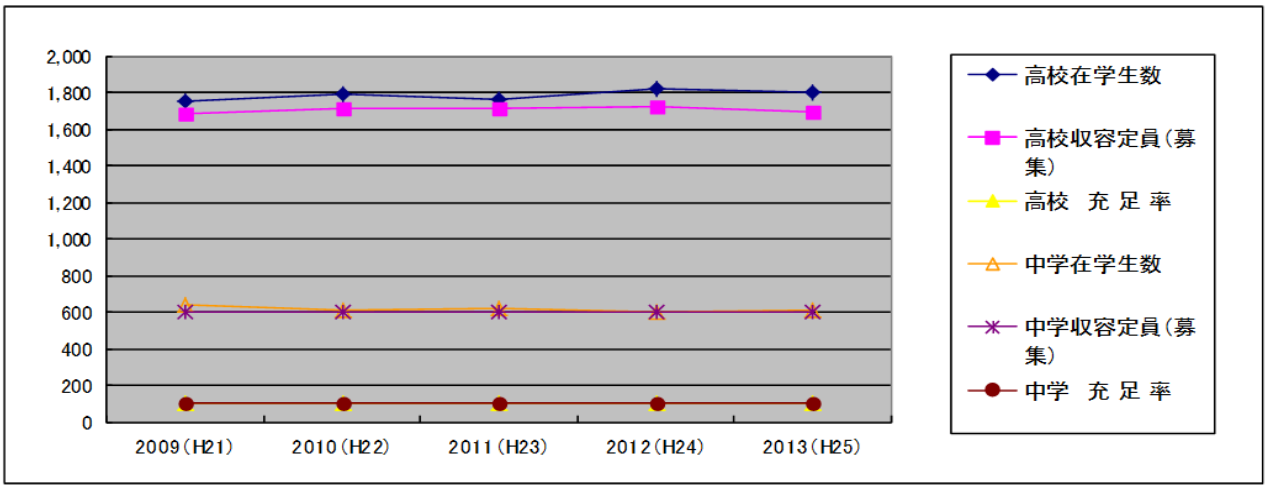
（単位：人・%）

区　分	項　目	2009（H21）	2010（H22）	2011（H23）	2012（H24）	2013（H25）
子ども学科	子ども在学生数	303	309	300	309	316
	子ども収容定員	300	300	300	300	300
	子ども 充 足 率	101	103	100	103	105
人間介護福祉学科（介護福祉コース）	介護在学生数	33	49	57	42	38
	介護収容定員	80	80	80	80	80
	介護　充 足 率	41	61	71	53	48
オフィス人材育成学科（オフィスワークコース）	オフィス在学生数	111	136	140	110	104
	オフィス収容定員	120	120	120	120	120
	オフィス充 足 率	93	113	117	92	87
短　大　計	在学生数	447	494	497	461	458
	収容定員	500	500	500	500	500
	充 足 率	89	99	99	92	92



（単位：人・%）

区　分	項　目	2009（H21）	2010（H22）	2011（H23）	2012（H24）	2013（H25）
高田高等学校	高校在学生数	1,750	1,795	1,759	1,818	1,801
	高校収容定員（募集）	1,680	1,710	1,710	1,725	1,695
	高校　充 足 率	104	105	103	105	106
高田中学校	中学在学生数	640	613	620	602	605
	中学収容定員（募集）	600	600	600	600	600
	中学　充 足 率	107	102	103	100	101
中　高　計	在学生数	2,390	2,408	2,379	2,420	2,406
	収容定員	2,280	2,310	2,310	2,325	2,295
	充 足 率	105	104	103	104	105



（7）平成25年度学生・生徒進路状況等

短期大学卒業者・進学者・就職者数

区　　分	子ども学科	人間介護福祉学科	オフィス人材育成学科	合　計	摘　要
卒　業　者	152名	14名	45名	211名	
就職希望者	147名	10名	39名	196名	
就職決定者	147名	10名	37名	194名	
未内定者	0名	0名	2名	2名	
進　学　者	2名	2名	4名	8名	四大・専門等
そ　の　他	3名	2名	2名	7名	家事従事等

主 な 就 職 先

市町立幼稚園　・保育所
さくら幼稚園
道伯幼稚園
神戸保育園
藤水保育園
わかすぎ保育園
高田幼稚園
富田文化幼稚園
岸田保育園
ほうりん保育園
若葉保育園
津幼稚園
まつさか幼稚園
たけのこ保育園
三重愛育保育園
ときわ幼稚園
まるこ幼稚園
長太の浦保育園
ゆたか保育園
特養　高田光寿園
特養　報徳園
済生会明和病院なでしこ
サンヒルズガーデン
聖マッテヤ子供の家
（株）百 五 銀 行
（株）三 重 銀 行
（株）第 三 銀 行
朝日ガスエナジー（株）
三重トヨタ自動車（株）
中北薬品（株）
三岐鉄道（株）
津安芸農業協同組合
東海マツダ販売（株）
三重ヤクルト販売（株）
（株）サイネックス
（株）戸田医科器械店
（株）林イマニティ
（株）杉新衣裳店
田中病院
砂子貢税理士事務所

＜高等学校卒業者数＞

	男	女	計
三年制 Ⅰ類	95	103	198
三年制 Ⅱ類	62	73	135
六年制	120	70	190
合　計	277	246	523

高等学校進学合格者述べ数（既卒者含む）

		三年制 Ⅰ類 現	三年制 Ⅰ類 卒	三年制 Ⅱ類 現	三年制 Ⅱ類 卒	小計	六年制 現	六年制 卒	小計	合計
四年制大学	国立	0	0	12	4	16	82	27	109	125
四年制大学	公立	0	0	2	0	2	13	10	23	25
四年制大学	私立	135	7	176	43	361	310	126	436	797
文部科学省所管外		0	0	1	1	2	3	3	6	8
短大	公立	2	1	10	0	13	0	0	0	13
短大	私立	38	1	6	0	45	0	0	0	45
国公立各種･専門学校		1	0	5	0	6	0	0	0	6
私立各種 ・専門学校		50	0	17	1	68	0	0	0	68
就　職		4	0	3	0	7	0	0	0	7

主な進学先（４月１８日付現在）

国公立大学

東京大学　9名
京都大学　5名（医学科 1名）
大阪大学　7名（医学科 1名）
名古屋大学　15名（医学科 6名）
三重大学　36名（医学科 18名）
名古屋市立大学　6名（医学科 2名）
広島大学　6名
東北大学　2名（医学科 1名）
一橋大学　2名
筑波大学　2名（医学科 1名）
名古屋工業大学　3名
大阪市立大学　2名
神戸大学　3名（医学科 1名）
九州大学　2名
新潟大学　2名（医学科 2名）
信州大学　2名（医学科 2名）
金沢大学　2名
横浜国立大学　2名
横浜市立大学　2名

国公立大学合計　150名（医学科 37名）

私立大学

早稲田大学　18名
慶応大学　25名
東京理科大学　20名
明治大学　19名
中央大学　12名
同志社大学　45名
立命館大学　68名
関西大学　24名
南山大学　30名
近畿大学　19名
中京大学　35名
名城大学　28名
皇學館大学　56名
鈴鹿医療科学大学　42名

私立大学合計　797名

２　事業実績の概要

法　人

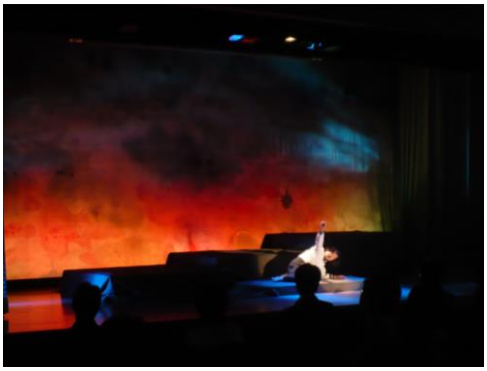
１）夏季研修

例年、夏期休暇を利用して教職員の資質向上を目的として行っている教職員研修ですが、本年度よりその対象を従来の教職員から、保護者や周辺地域住民にまで広げ、研修内容に関しても広く一般の方に興味を持たれる内容に見直しました。本年度は平成２５年８月２０日（火）に高田高等学校本館の講堂において、教職員約２００名、保護者約８０名、周辺地域住民約４０名合計約３２０名の参加者を迎え盛大に開催されました。

冒頭に髙臣学苑長が挨拶を行い、第１部は三重大学大学院工学研究科准教授川口淳氏を講師に迎え「大地震・大津波に備える～いまやるべきこと～」と題して講演を行いました。三重大学の災害プロジェクト室員を兼務する川口氏は、津市、鳥羽市など数多くの市町村、団体などの防災アドバイザーなども務められています。今回は、その専門的知識を生かして、東北大震災の被害例なども交えて防災対策について分かりやすく講演をして頂きました。東海地方では近い将来、東海・東南海連動型地震の発生が危惧されています。誰にとっても身近で興味のある内容だけに皆真剣に聴講していました。

第２部は俳優の堀絢子氏を講師に迎え、ひとり芝居「朝ちゃん」を公演して頂きました。広島での被爆によりお父様を亡くされた堀さんは数々の舞台や声優の仕事をしながら、原爆の非人間性を訴えるための芝居をされています。今回は原爆投下翌朝の広島を舞台に、一人で５役を見事に演じ分け、反戦反核を訴えました。原爆投下後の広島の様子をリアルに表現した、思わず息を飲むような芝居に聴講者は皆引き込まれていました。

第１部公演の様子



第２部ひとり芝居の様子

２）教職員の福利厚生事業の充実

平成２３年度より夏期休暇中に実施をしている健康診断を本年度も８月１日（木）、２日（金）、５日（月）の３日間で開催しました。検査項目については学校保健法、結核予防法、労働安全衛生法などで定められた項目を遵守し、教職員約２００名が受診しました。

検査結果は個人に直接通知され、教職員の健康管理に役立っています。また、この結果をもとに高田学苑の産業医である岩崎病院に健康管理に役立つ適切な指導・助言を行っていただいております。

これに加え、高田学苑では、がんが疾病による死亡の最大の原因となっていることから、がん対策の一

層の充実を図る為、１０月２９日（火）・３０日（水）・３１日（木）の３日間にわたり乳がん、腹部エコー及び前立腺がんなどの任意検診を費用の半額を補助する形で行いました。

３）教職員の表彰

（高田学苑役員表彰）　平成２５年１１月　８日（金）

〇高田学苑　理事　永井　玲子

津家庭裁判所調停委員として２０年間の永きにわたり津地裁において家事調停に尽力してきた功績が称えられ、平成２５年春の褒章藍綬褒章を受章されました。その功績を称え、平成２５年度高田学苑第２回理事会において髙臣学苑長より平成２５年度特別表彰を受賞されました。

〇高田学苑　評議員　松田　英明

農機具販売店の２代目として農業界に入り、農機具の販売だけでなく、農業への企業参入や農薬販売、米の集荷事業など様々な事に挑戦してきた功績が称えられ、平成２５年秋の黄綬褒章を受章されました。その功績を称え、平成２５年度高田学苑第２回理事会において髙臣学苑長より平成２５年度特別表彰を受賞されました。

（高田学苑特別表彰）　平成２５年１１月　５日（火）

〇中・高等学校　　１名

昭和５３年に高田中・高等学校の非常勤講師に就任して以来、教頭・副校長を歴任し、３５年の永きにわたり本学苑の建学の精神にのっとり、学苑の発展のため献身的な努力を重ねられた功績により平成２５年１０月１９日（土）に三重県私学総連合会より優良教職員表彰を受賞されました。そして、その栄誉をたたえ高田学苑長より平成２５年度特別表彰を受賞されました。

（永年勤続表彰）

〇短期大学　　平成２５年１１月１１日（月）

計３名

２０年勤続　　１名

１５年勤続　　２名

〇中・高等学校　平成２５年１１月　５日（火）

計１５名

４０年勤続　　１名

３５年勤続　　３名

３０年勤続　　１名

２５年勤続　　４名

２０年勤続　　２名

１５年勤続　　２名

１０年勤続　　２名

４）安全管理の取り組み

＜短大・中高＞

◇ＡＥＤ（自動対外式除細動器）設置（７台）

【短大】

１号館	１階正面玄関

【中高】

本館	１階正面玄関（地域住民への対応）
４号館	１階保健室
第１体育館	２階体育教官室
西グラウンド管理棟１	２階管理室
西グラウンド管理棟２	２階管理室
西グラウンド厩舎棟	１階管理室前（外部）

◇地域避難所（体育館）の指定・防災倉庫の設置

中高等学校の避難倉庫

高田学苑は津地域避難所として指定されています。これに伴い短期大学及び中・高等学校に防災倉庫を設置し、備蓄品の保管をしています。

生徒・教職員は勿論のこと地域住民の皆様方が災害時における危険回避のための避難が円滑に行われるように、避難場所の周知を行っています。

◇　緊急地震速報受信システムの導入

平成２２年１２月より中・高等学校及び短期大学に緊急地震速報受信システムの導入しました。これは震度５弱以上の地震が発生した場合、大きな揺れが到達する前に、校内に一斉放送で知らせることにより、生徒及び教職員の安全を確保するものです。

このシステムの導入により、既に運用している「地震・災害マニュアル」も、このシステムに対応したものに変更しました。

◇　防災ガイドの作成

東海地方では近い将来東海・東南海連動型地震が発生することが危惧されています。東日本大震災の教訓を生かし、地震発生時に学生生徒及び教職員がスムーズに避難できるように災害発生時の対応をマニュアル形式で記載した名刺サイズの防災ガイドを短期大学・中高等学校別に作成しました。この防災ガイドは既に全校生徒及び全教職員に配布しました。学生生徒及び教職員はこの防災ガイドを常に携帯し、今後災害発生時の対応に役立ててくれるよう啓蒙活動にも力を入れていきます。

中・高等学校の防災ガイド（短大も同形式で作成）

＜短大＞

地震等の災害に対する意識高揚を図る為、１０月に防災訓練、１月に避難訓練を実施しました。

１０月の訓練は文部科学省からの総合防災訓練大綱に基づき、実際さながらに校舎火災を想定し、避難誘導、負傷者の救護等を行った後、津北消防署員の方による指導のもと、消火器の取扱や起震車による震度７の地震を体験するなど、一人ひとりの防災への動機付けを行いました。

１月の避難訓練は、より実際的に行うため、昼休み時間に抜き打ちで実施しました。

＜中・高等学校＞

◇緊急災害時避難場所開錠フローチャートの作成

中・高等学校が津市の地域防災一次避難所に指定され、防災倉庫が設置されたことにより、高田学苑においても周辺地域の避難場所としての責務に応える必要があります。

緊急災害時の混乱が予想される状況において、迅速に避難所を開設するために、平成２３年度に「緊急災害時避難場所開錠フローチャート」を作成しました。今回は事務職員を中心として、パターン別に災害時の行動指針をフローチャートにまとめました。このチャートを普段よく見る場所に掲示し、事務職員の意識付けに役立て、緊急災害時における迅速な避難場所の開設に役立てていきます。

５）理事会・評議員会・監事会・内部監査委員会の開催状況及び監査法人監査報告

平成２５年度も高田学苑寄附行為に基づき、計３回の理事会、２回の評議員会が開催されました。また、高田学苑では私立学校に義務付けられている監査法人及び監事の監査に加え、内部監査委員による監査を行い、学校法人におけるガバナンスが適切に機能しているか、外部及び内部から監督・指導を受けています。平成２５年度に行われた各会の開催日と議題は以下になります。

＜理事会＞

平成２５年５月３０日（木）　【審議事項】
平成２４年度決算の承認について

平成２５年１１月８日（金）　【審議事項】
高田高等学校グラウンド拡充事業計画について
平成２５年度第１回収支補正予算について
学校法人高田学苑勤務規則の一部改正について
再雇用職員及び嘱託・非常勤講師等勤務規則の一部改正について
学校法人高田学苑給与規程の一部改正について
再雇用職員、短期大学に勤務する特任の教員及び嘱託・非常勤講師等給与規程の一部改正について
学校法人高田学苑資金運用管理基準の一部改正について
高田短期大学学則の一部改正について
高田高等学校学則の一部改正について
高田中学校学則の一部改正について

平成２６年３月２７日（木）　【審議事項】
学苑長の任期満了に伴う任免について
理事長の選任について
高田短期大学人間介護福祉学科の廃止について
高田高等学校グラウンド拡充計画に係る土地の購入について
平成２５年度退職者に係る退職金の増額支給について

平成２５年度第２回収支補正予算について
平成２６年度収支当初予算について
学校法人高田学苑組織規程の一部改正について
学校法人高田学苑勤務規則の一部改正について
学校法人高田学苑給与規程の一部改正について
学校法人高田学苑外国人指導助手の任用に関する規程の廃止と制定について
高田短期大学学則の一部改正について
高田高等学校学則の一部改正について
高田中学校学則の一部改正について
高田高等学校授業料等生徒納付金助成規程の一部改正について

【諮問事項】
評議員の選任について

＜評議員会＞

平成２５年５月３０日（木）　【審議事項】
平成２４年度決算の承認について

平成２５年１１月８日（金）　【審議事項】
高田高等学校グラウンド拡充事業計画について
平成２５年度第１回収支補正予算について

平成２６年３月２７日（木）　【審議事項】
高田高等学校グラウンド拡充計画に係る土地の購入について
平成２５年度第２回収支補正予算について
平成２６年度収支当初予算について

＜監事会＞

平成２５年５月２４日（金）　【議事】
平成２４年度短期大学及び中・高等学校概要報告
平成２４年度決算審査関係
決算審査関係質疑応答及び実査
平成２４年度事業実績報告
質疑応答

平成２５年１１月５日（月）　【議事】
平成２５年度短期大学及び中・高等学校概要報告
平成２５年度第１回補正予算書及び現預金状況
平成２５年度事業実績報告（中間）
質疑応答及び実査

＜内部監査委員会＞

平成２５年５月２１日（火）　【議事】
平成２４年度短期大学及び中・高等学校概要報告
平成２４年度事業実績報告
平成２４年度決算概要報告
管理運営等について（質疑応答）

平成２５年１０月３１日（水）【議事】
平成２５年度短期大学及び中・高等学校概要報告
平成２５年度事業実績中間報告
現金、預金及び有価証券等の状況
管理運営等について（質疑応答）

＜監査法人監査＞　　監査法人名：五十鈴監査法人

平成２５年　４月　２日（火）　現金、通帳、証書の実査
平成２５年　５月１５日（水）他　平成２４年度決算監査
平成２５年　９月１１日（水）　平成２５年８月までの取引記録
平成２５年１２月　６日（金）　平成２５年１１月までの取引記録
平成２６年　１月２０日（月）　平成２５年１２月までの取引記録
平成２６年　２月２７日（木）　短大部門の取引記録
平成２６年　３月１１日（火）　平成２６年２月までの取引記録

６）教職員の異動状況

２５年度に採用及び退職された教職員数の詳細は以下のとおりです。

【採用】　短期大学

学科長（再雇用）	１名
助　　教	１名
特任教授	１名
本務職員	１名
嘱託職員	４名
計	８名

中・高等学校

管理職（再雇用）	１名
教諭	１名
講師（再雇用）	５名
講師嘱託	１名
非常勤講師・嘱託（再雇用）	２名
非常勤講師（再雇用）	６名
本務職員	１名
嘱託職員	１名
計	１８名

学苑合計　　２６名

【退職】　短期大学　　学 科 長　　１名
教　　授　　２名
准 教 授　　２名（内再雇用１名）
講　　師　　１名
助　　教　　１名
特任教授　　１名
特任講師　　１名
本務職員　　１名
非常勤職員　　１名
計　　１１名

中・高等学校　管 理 職　　３名（再雇用）
教　　諭　　５名（内再雇用３名）
非常勤講師　　３名
計　　１１名　　学苑合計　　２２名

3　教育研究活動の実績

高田短期大学

＜短大全体＞

～時代・社会の変化に即応した取り組み～

（1）学士力向上を目指した教育課程の展開

キャリア育成学科開設に伴う２学科体制の新たな枠組みの中で、本学各学科・コースの特色ある教育課程を展開し、学生一人ひとりへのきめ細かな学修支援体制の強化、改善に取り組みました。

〇教育の目的

「高度な専門知識や技術・技能を身につけ、『やわらか心』で地域社会に貢献できる保育者、オフィスワーカー、介護福祉士の育成」

〇教育の目標

「一人ひとりの学生の学修到達目標への到達の支援」

教育課程

◇子ども学科　『教養科目』　仏教学Ⅰ・Ⅱ、日本国憲法、ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ、英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・体育等

『専門科目』　教育・保育の基礎理論、教育・保育の内容と方法、教科・基礎技能、総合、教育・保育実習、ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ、福祉、児童厚生

◇キャリア育成学科　　〇オフィスワークコース　　〇介護福祉コース

『教養科目』《一般教養》（仏教学Ⅰ・Ⅱ、経済学、数学演習、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ実践、ｽﾎﾟｰﾂと健康等）《外国語》（英会話、海外英語研修等）

『専門科目』《キャリア育成基幹科目》〈ｷｬﾘｱ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・ﾋﾞｼﾞﾈｽﾏﾅｰ・ｱｸｼｮﾝ・ﾁｰﾑﾜｰｸ・ｼﾝｷﾝｸﾞ・ｾﾞﾐﾅｰﾙ〉

《キャリア育成応用科目》〈ｵﾌｨｽ・ﾋﾞｼﾞﾈｽ・会計・情報・医療福祉・人間と社会・介護・こころとからだ・医療的ｹｱ〉

『課程外科目』青年心理学、ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ概論、ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ理論等

・学内で修得した知識や技術を実習や社会体験、ボランティア活動などで実践し、現場で得た経験や疑問を各授業にフィードバックすることにより、問題・課題を学生仲間、教員と共に考えます。キャンパス内外での学習活動の融合により、学生が主体的に取り組むアクティブ・ラーニングへの転換を進め、学修到達目標の実現に努めています。

◎実習・社会体験

◇子ども学科　１学年　教育実習Ⅰ（11 月 幼稚園 １週間）、保育実習Ⅰ（2 月 保育園 10 日間 ）

２学年　保育実習Ⅰ（ 6 月 施設 10 日間）、教育実習Ⅱ（9 月 幼稚園 3 週間）、保育実習Ⅱ（11 月 保育園 10 日間）

◇キャリア育成学科

〇オフィスワークコース

１学年　社会体験実習（８月 事業所・公共機関等６４時間以上）

〇介護福祉コース

１学年　介護実習Ⅰ（８月 施設 １０日間）、介護実習Ⅱ（２･３月 施設 ２０日間 ）

２学年　介護実習Ⅲ（８･９月 施設 ２０日間）

◎ボランティア活動

子育て支援や地域伝統行事などを通して、奉仕の精神を培い、将来地域社会で他者と共生し、充実した生活を過ごすため、ボランティア活動を奨励しています。子ども学科 １・２学年の前後期の「ゼミナールⅠ・Ⅱ」、キャリア育成学科「ボランティア実践」の授業においては、各学生が活動に関する基礎知識を学習するとともに、ボランティア活動支援室のサポートにより、学外の各種ボランティア体験に出向きました。

学修支援の取り組み

◎シラバス(授業計画)の改善

履修科目の選択、学習の進め方の拠り所となるシラバス（授業計画）について、「学習成果」獲得の更なる向上に向け、到達目標、授業計画、時間外学習、成績評価方法・基準の明記等、様式・内容の改善を行いました。同時に、従来は冊子として使用のシラバスを学生・科目担当者の利便性の向上をねらいとして、次年度から Web 上で運用することに改めました。ホームページからも閲覧可能で一般公開にも対応しています。

◎出欠管理システムの活用

各授業における学生の出欠状況を管理する Web システムに改良を加え、ゼミ担当教員、授業担当教員等が該当学生の出欠状況を即時把握することが可能となりました。欠席時数が増加傾向にある学生への早期の指導、支援に関係教職員が連携し当たっています。

（２）主体性・協調性を育む短大生活支援

新入生オリエンテーションから始まる２年間の明るく元気な高短生のキャンパスライフ環境を多方面から全教職員が連携して支えています。各学生の課外活動、奨学金制度による経済的支援、心身両面の健康を保つための相談体制等、学生一人ひとりの実態に即した対応に努めました。

１）新入生宿泊研修

２年間の短大生活を有意義に過ごすため、新入生オリエンテーション行事の締めくくりとして、宿泊研修を実施しました。高短大生として自立心、協調性を養うとともに、学生・教員相互の理解と親睦を深める研修目的を参加者全員が自覚し、取り組むことができました。

日　時　　４月２４日（水）～２５日（木）１泊２日

会　場　　COCOPA RESORT CLUB 白山ヴィレッジゴルフコース（津市白山町川口６２６２）

参加者　　１年生及び教員全員、関係職員

研修内容　学長講話、子ども学科「すてきな保育者になるために」、キャリア育成学科「グループワーク〈先生にインタビュー〉」、レクリエーション、パターゴルフ等

２）学生自治会主催イベント

本学伝統の自治会活動では、２年生の執行部役員に加え、１年生から学生自治会サポートメンバーを募り、各学生が自らの役割を考えて行動し、課題を解決していく「異学年共同コミュニティ」の形成を目指しています。自治会活動を教職員が支え、年間を通して数々の行事を実施しました。

①学生生活相談会

日　時　４月５日（金）～４月１１日（木）
場　所　２号館１Ｆロビー前
内　容　新年度開始直後の１週間に自治会執行部役員によるブースを設け、科目履修、部活動、アルバイト、就活等について新入生の相談に応じました。

②バーベキュー大会

日　時　５月１８日（土）１２：００～１６：００
場　所　本学馬場跡地
内　容　学生の親睦を深めるため､野外バーベキューとゲーム大会を行いました。
当日は、約２３０名の学生・教職員が参加し、大盛況の催しとなりました。

③ランチタイムコンサート

日　時１０月１０日（木）、１月２４日（金）

④学生自治会と学長との懇談会

日　時５月１６日（木）、１２月１１日（水）

⑤第４８回高短祭

日　時　１０月２６日（土）・２７日（日）

内　容　前年度の金・土曜日開催から従来の土・日曜日の２日間開催に戻しました。台風の接近に伴い、２６日を中止とし１日に短縮した開催となりましたが、学生自治会執行部が中心となり全学生で協力し、大いに盛り上がった大学祭となりました。

⑥ＴＪＣ祭（スポーツ大会）

日　時　１月１８日（土）　場　所　体育館

内　容　学生主体による行事として、恒例のスポーツ大会を実施しました。参加者は真冬の寒さのなか、熱のこもったチームプレーで親睦を深めました。

（３）キャリア教育・キャリア支援の充実

１）キャリア教育の推進

各学科・コースの特色に応じて、教養科目・専門科目の各授業と進路ガイダンス、プレ就職講座、就職講座を関連づけ、キャリア教育の推進に努めました。

〇２４年度入学生（２年生）

子ども学科	就職講座	７回実施
人間介護福祉学科	就職講座	４回実施
オフィス人材育成学科	就職講座	４回実施

〇２５年度入学生（１年生）

子ども学科	進路ガイダンス	４回実施	就職講座	７回実施
キャリア育成学科				
オフィスワークコース	プレ就職講座	６回実施	就職講座	６回実施
介護福祉コース	プレ就職講座	１回実施	就職講座	４回実施

※公務員試験・教養試験対策講座受講者数（外部講師）

	２３年度	２４年度	２５年度
１年生	９７人	８５人	８７人
２年生	４７人	４５人	２６人

２４年度入学生（現２年生）は、３月１２日から　７月１６日まで１５回実施

２５年度入学生（現１年生）は、９月１３日から１２月１７日まで１５回実施

２）就職活動における学生への支援

キャリア支援センターに４名配置のキャリアサポーターによる求人開拓、進路相談等、就職活動における教職員連携による学生個々に応じた支援は、平成２６年３月卒業生に対して例年以上の進路実績に繋がりました。

３）早期離職の防止対策と卒業生への支援

早期離職防止の講座については、全学科合同で２月１９日（水）に実施しました。未就職あるいは離職した卒業生に対しては継続して支援を行い、今年度は３４名の卒業生に対応しました。

４）「キャリアカルテ」の活用による教職協働の推進

就職支援システム「キャリアカルテ」を核とした WEB サイト上のネットワークである「高短キャンパスネット」の学生、教職員双方の積極的な活用を進めています。今年度より、キャリア育成学科オフィスワークコースでは、その専門性を勘案し、学生一人ひとりにノートパソコンを配布し、パソコンを使いたいときにいつでも使える体制を整えました。また、学生、教職員の学生、教職員の「高短キャンパスネット」各画面へのアクセス回数増加を目指し、学内無線 LAN、充電ポイントなどの設備環境の整備にも取り組んでいます。学生に種々の学内情報、進路情報を容易に入手させるとともに、教職員が「キャリアカルテ」等を通して、より一層協働して学生の支援に当たることで、キャリア形成支援及び高い就職内定率の維持に努め、本学が引き続き地域において高い就職内定率を維持できるよう努めています。

（４）学生募集と高大交流事業

１）全教職員による学生募集活動の展開

平成２６年度入学者の確保を目指し、高短フェア、オープンキャンパス、進学相談会等の高校生を招いての説明会や年間６回実施の高校訪問、各高校・会場等でのガイダンス、その他広報において、入試広報委員会・入試広報課を中心にして全教職員が積極的に活動しました。また、本学への志願の機会を増やすため、３月に推薦入試Ⅲ期を新設するなど入試日程、入試要項にも改善を加えました。

① オープンキャンパス

・日時　　第１回　６月１５日（土）１３：００～１６：４５
　　第２回　７月２１日（日）１３：００～１６：４５

・参加者数

学　　科	コース	第１回	第２回	合　計
子 ど も		１６５名	２１０名	３７５名
キャリア育成	オフィスワーク	４８名	６４名	１１２名
	介護福祉	１３名	１３名	２６名
合　　計		２２６名	２８７名	５１３名

・実施スケジュール

１３：００～１３：２５　全体説明会　１３：３０～１６：４５　各学科説明・体験・相談

②　高短フェア（プレ・オープンキャンパス）

・日　　時　　３月８日（土）１３：００～１５：００

・参加者数　　高校２年生８６名　１年生２５名　及び保護者　計１５０名

③　進学相談会

・日　　時　　①第１回　　７月６日（土）１３：００～１５：００　参加者２７名

②第２回　１０月５日（土）１３：００～１５：００　参加者１３名

２）高大教育交流の推進

高校生のキャリア形成、進路選択への支援充実、本学への志願者確保、入学前教育の在り方について実践研究等を目的として、前年度より開始の高大教育交流事業を本格的に展開しました。協定校との年間３回の連絡協議会や学苑内の高校・短大教員懇談会の開催は、高校側教員の本学教育活動への理解が深まるとともに、今後の高大交流の進め方について有効な協議の場となりました。

〇高大教育交流協定の締結

今年度は、亀山高校、明野高校、宇治山田商業高校、四日市商業高校、久居高校、松阪商業高校、四日市西高校と協定を締結し、昨年度からのいなべ総合学園高校、白子高校、四日市四郷高校、相可高校、津商業高校と合わせ、１２校との高大交流活動に発展しました。

〇平成２５年度高大教育（協定校・高田高校）事業

①出張ガイダンス（協定校へ出向いて学校ガイダンスを行いました）

月日	曜	時間	高校名	出席者	形式	対象	参加者
5月8日	水	12:50～14:15	いなべ総合学園	浅尾・竹内	職業別説明会（幼児教育・保育）	1年	27
		15:30～16:15			学校別説明会	1～3年	23
6月7日	金	14:15～15:20	四日市四郷	藤山	学校別説明会	3年	13
		15:45～16:45			放課後ガイダンス	1～3年	27
6月19日	水	13:30～15:00	白子	浅尾・藤山	学校別説明会（ホテルグリーンパーク鈴鹿）	3年	16
7月4日	木	12:30～13:30	亀山	浅尾	入試説明	3年	15
7月5日	金	10:20～11:30	津商業	浅尾・小坂	面接説明	2年	11
7月8日	月	10:45～11:35	明野	藤山	学校別分科会	3年	4
7月17日	水	10:00～14:30	津商業	竹内	学校別説明会	2年	21

8月30日	金	11:20～11:50	相可	浅尾	職業別説明会（幼児教育・保育）	2年	9
9月25日	水	13:20～16:30	いなべ総合学園	藤山	分野別進路説明会	1年	35
12月11日	水	15:50～16:50	宇治山田商業	福田	分野別ガイダンス（福祉）	2年	7
12月16日	月	9:10～9:50	四日市四郷	浅尾	学校別説明会	2年	11
		10:00～10:40					
12月16日	月	10:55～11:45	亀山	竹内	保育・幼児教育関係	1年	37
		11:55～12:45					
12月16日	月	13:30～14:20	明野	浅尾	保育系ガイダンス	1・2年	9
12月18日	水	11:35～12:40	津商業	福田・岡田	進路ガイダンス（情報処理・事務・福祉）	2年	8
1月29日	水	14:15～14:45	四日市四郷	稲田	職業人講話説明会	1年	14
		14:50～15:20					8
		16:00～16:30		竹内	学校別説明会	1・2年	7
		16:30～17:00					0
2月13日	木	12:05～12:55	四日市商業	浅尾・竹内	職業別説明会	1年	30
		13:30～14:20			進学ガイダンス		280
2月19日	水	13:30～14:00	白子	浅尾	学校・企業別ガイダンス（会場：鈴鹿市体育館）	1・2年	8
		14:15～14:45					9
		15:00～15:30					9
3月7日	金	10:45～11:30	松阪商業	浅尾	高校内ガイダンス	2年	15
		11:40～12:25					14
3月17日	月	10:50～11:30	亀山	浅尾	学校別説明会（会場：亀山市文化会館）	2年	15
		11:40～12:20					8
3月18日	火	11:00～11:50	津商業	竹内	進路ガイダンス（保育・幼児教育学）	2年	18

②出前・模擬授業(協定校へ出向いて出前・模擬授業を行う)

月　日	曜	時　間	高校名	担　当	形式	対象	人数
6月26日	水	15:30～16:30	相可	小　池	保育系出前授業	1～3年	40
7月 5日	金	9:00～10:10	津商業	杉　浦 川喜田	模擬講義（キャリア育成学科）	2年	12
9月17日	火	13:40～15:10	相可	山　本	保育系出前授業	3年	21
10月2日	水	13:00～15:00	白子	杉　浦	「ビジネスマナー」講習	3年	252
11月6日	水	13:25～15:15	白子	岡田・竹内	体験授業（販売・営業・サービス）	1年	11
11月6日	水	13:25～15:15	白子	小菅	体験授業（幼児教育・保育）	1年	38

11月20日	水	13:30～14:20	四日市四郷	岡田	新社会人講座（※ビジネスマナー以外で）	3年	234
11月27日	水	14:25～15:15	久居	小菅	保育講座「乳幼児の遊び」	1年	15
12月11日	水	15:50～16:50	宇治山田商業	宮﨑	模擬授業（保育）	2年	25
12月13日	金	13:25～15:05	四日市西	小池	模擬授業（保育・幼児教育）	2年	32
12月19日	木	10:55～11:45	津商業	小池	模擬授業（幼児教育・保育）	1年	30
1月20日	月	8:55～9:45	亀山	福田	福祉系模擬授業「高齢者のかかりやすい病気について」	2年	40
1月23日	木	10:55～11:45	亀山	小池	保育系模擬授業「事例から見た子どもの心理」	2年	22
1月29日	水	14:25～15:15	久居	小池	保育講座「事例から見た子どもの心理」	1年	15
2月19日	水	13:30～15:00	久居	福西	模擬授業（保育・幼児教育系）	2年	21
2月19日	水	14:25～15:15	久居	山本	保育講座「保育と幼児音楽教育」	1年	18
3月13日	木	11:25～12:10	相可	杉浦	マナー講習会	2年	265

③特別講座・授業見学・施設見学など(本学の講義に出席、施設・設備見学)

月　日	曜	時　間	高校名	形　式	対象	人数
6月25日	火	13:30～15:30	相可	学校見学・学生との交流 （「保育実践」選択生）	3年	21
7月17日	水	11:00～14:00	四日市四郷	学校見学、特別授業（山　本）	2･3年	14
7月25日	木	9:30～11:50	白子	進路ガイダンス　（藤　山） 特別授業①（浅尾、鷲尾、野呂、福田）	2年	19
7月26日	金	9:30～12:00		特別授業②（寶来、杉浦、岡田、徳山） 特別授業③（小池、川喜田、千草）	2年	17
12月13日	金	9:40～10:30	四日市四郷	学校見学・授業見学	2年	15

④高田高校との学苑内高大連携

月　日	曜	時　間	担　当	内　容	対象	人数
5月15日	水	12:50～14:30		教職員意見交換会（高３学年担任団との懇談）		
5月18日	土	11:10～12:00	杉浦	高３保護者会	保護者	25
5月20日	月	15:30～16:30	杉浦･竹内	学校説明会	1～3年	65
12月26日	木	9:30～10:40	小池	特別講座「事例から見た子どもの心理」	2年	23
			鷲尾	特別講座「クラウドサービスを賢く使う」		5
			徳山	特別講座「介護の仕事とは？介護の魅力とは？」		2
3月24日	月	13:00～14:30	山本	特別講座「保育と幼児音楽教育」	1・2年	34
			杉浦	特別講座「ビジネスマナーの基本」		19
			福田	特別講座「社会福祉と福祉専門職」		5

〇高大教育交流連絡協議会

第１回　　６月１５日（土）１３：００～１５：００

実施内容：連絡協議会協議内容確認、第１回オープンキャンパス見学等

第２回　１０月１７日（木）１３：００～１５：００

実施内容：研究協議、子ども学科説明、子ども学科授業見学

第３回　　１月３０日（木）１３：３０～１５：４５

実施内容：キャリア育成学科説明、キャリア育成学科について協議

（５）自己点検・評価の取り組み

１）自己点検・評価委員会

学内全体の自己点検・評価活動を統括し、活動を推進する「自己点検・評価委員会」は、本学の教育・研究活動の向上発展に向けて、①「授業評価アンケート」②「学生満足度調査」③ＦＤ・ＳＤ活動④「年次報告書」作成の４分野に取り組みました。

「授業評価アンケート」「学生満足度調査」では、科目担当者の授業や諸々の学習環境支援への学生からの評価を真摯に受け止め、集計結果の分析、教職員への周知に努めました。次年度以降の自己点検・評価活動の改善に備え、質問項目や調査方法の見直し、集計結果の公表等について検討しました。

２）教員評価システム

各教員は、「教員評価シート」の様式を用いて、前年度の「教育」「学術研究」「校内運営」「社会貢献」の４領域について、「学生による授業評価アンケート」結果等を参考として自己評価を行い、年

度当初の学長面談を経て明らかとなった諸課題への改善計画を基に、年間を通して教育・研究等の諸活動に取り組みました。「教員評価システム検討委員会」では、本学の高等教育機関としての教育・研究の質を保証する手だてとして「教員評価活動自己点検・評価」の在り方を継続検討しました。

３）第三者評価認証を控えて

（財）短期大学基準協会による第二サイクルの第三者評価を次年度に控え、提出用の「自己点検・評価報告書」の作成準備を進めました。今回の「自己点検・評価報告書」の主要箇所は、基準Ⅰ「建学の精神と教育の効果」基準Ⅱ「教育課程と学生支援」基準Ⅲ「教育資源と財的資源」基準Ⅳ「リーダーシップーとガバナンス」の各々について、「現状」「課題」「改善計画」「行動計画」を順次記述する様式ですが、「教育の質」の保障とも相俟って、「学習成果」については量的質的測定・アセスメントの確立が求められ、学生を主体とした教育活動として機関・教育課程・科目の各々においてＰＤＣＡサイクルが機能しているかが問われています。準備作業の進める過程において、毎年実施の自己点検・評価の取り組みを省察し、本学の教育・研究向上に真に有効となる活動への更なる進展を目指しています。

～地域への社会貢献事業～

（１）高田短期大学公開講座

①「デジカメでフォト日記～簡単なホームページ作成～」

日　　時　６月８日（土）
場　　所　３号館 PC 教室Ⅱ
参 加 者　２２名
受 講 料　無料
講　　師　キャリア育成学科　講師　川喜田　多佳子
内　　容　デジタルカメラの写真の取り扱いや加工方法、作品をホームページでの公開方法を学ぶ講座で、校内で撮影した写真を使い、フォト日記作成の体験をしていただきました。

②「子どものうたの世界への誘い～歌唱・歌あそびとお話～」

日　　時　６月２９日（土）
場　　所　音楽室Ⅰ
参 加 者　１２名
受 講 料　無料
講　　師　子ども学科　教授　福西　朋子
内　　容　季節のうた、子どものうたの解釈やその時代、作曲家、歌と遊びについての内容で、受講者の方々にも一緒に歌遊びを楽しんでいただきました。

③「腰痛予防と介護の技術～介護のお悩み相談～」

日　　時　８月３日（土）
場　　所　介護実習室
参 加 者　８名
受 講 料　無料
講　　師　キャリア育成学科　准教授　福田　洋子
内　　容　腰痛のメカニズム、腰痛予防のストレッチ、腰痛になりにくい介助方法など、実際の介助に役立つ知識 と運動の方法を学んでいただきました。

④「相続と贈与のしくみ～円満相続のための準備～」

日　　時　８月２４日（土）

場　　所　２号館大講義室
参 加 者　３９名
受 講 料　無料
講　　師　キャリア育成学科　助教　田中　薫
内　　容　平成２５年度税制改正点を含む相続制度の概要、申告までの流れ、税額計算、事前対策等の入門知識を聴講していただきました。

（２）教員免許状更新講習

昨年度に続き文部科学省の認可を受け、主に幼稚園教諭のための免許状更新講習を開催します。

講習参加者は県下全域から集い、その数は約４０名以上に及びます。（「Mie保育士人材バンク」受講生を一部含む）受講生による昨年度の実施後アンケートでは９４．３%の良い評価を得たので、今年度はそれ以上のものとなるよう関係教職員が努めています。日程及び講師等の詳細は、「Mie　保育士人材バンク」に同じです。

（３）Mie　保育士人材バンク「takada-jc」

県内の保育士養成校の卒業生を中心に保育士資格等を有していながら現在保育士として就業していない潜在保育士に対して、研修を提供しスキルアップを図り、子どもの視点に立った保育人材を育成し、再就職を支援する人材バンクです。また、保育士資格を有し、現在働いている方へ保育指針を踏まえたスキルアップの場を提供しています。今年度も教員免許状更新講習会等に合わせ、登録された保育士等につぎの研修会を実施する予定です。

１１月　　４日（祝）　講座①幼児教育と保育指導法　講師：子ども学科長・教授　山﨑　征子
子ども学科　助教　寶來　敬章
１１月１０日（日）講座②子どもの健康と食育　講師：子ども学科　教授　宮崎　つた子
子ども学科　教授　鷲見　裕子
１１月１７日（日）講座③子どもの教育方法　講師：子ども学科　教授　三宅　啓子
子ども学科　助教　柳瀬　慶子

参加費　無料
定　員　各講座とも４０名程度

（４）みえアカデミックセミナー２０１３　～心豊かな人生へのアクセス～

日　　時　７月２４日（水）１３：３０～１６：００
会　　場　三重県総合文化会館１Ｆ　レセプションルーム
担　　当　講演：キャリア育成学科オフィスワークコース
挨拶：子ども学科、司会：事務局
日　　程　１３：００　受付開始
１３：３０～１３：４０　開会挨拶
１３：４０～１４：４０　講演①「大人のための英語講座」
キャリア育成学科　教授　畠山　義啓
１４：４０～１４：５０　休憩
１４：５０～１５：５０　講演②「日本語の不思議・面白さ」
キャリア育成学科　助教　野呂　健一

１５：５０～１６：００　質疑応答
１６：００　終了

参加者数等

当日は、一般１００名、本学教職員６名、計１０６名が参加、畠山教授は、英語の成り立ちや世界の共通言語となった理由について、歴史的背景を交えた解説があり、学習方法をわかりやすく説明されました。野呂助教は他の言語と比較して日本語の特徴を述べられ、普段の間違った使い方や乱れについてお話しいただき、参加者は興味深く聴講していました。

（５）大学サロンみえ

「大学サロンみえ」は、県（三重県政策部企画室）が主催し、県内の各高等教育機関と連携して、地域の発展をめざすもので、主に「高等教育機関と地域との連携の仕組みづくり推進事業」に学生が参画しています。本学では昨年に引き続き、度会郡玉城町の「玉城ぶどうフェスタ」に４名の学生が参加しました。３月には最も成果のあった取組事例を紹介する「ベストプラクティスコンテスト」を実施しました。

＜子ども学科＞

（１）保育に関する調査研究

全国保育士養成協議会の研究大会において、「生活習慣の悩みに関する保護者支援者間の意識のズレ」、「保育観のめばえを育む取り組み―保育実習事後指導におけるMy Ideal」、「おやこ広場からみる親育ち」についての発表を行いました。

（２）あのつ家庭教育支援コーディネーター養成講座

つぎのとおり実施いたしました。

回	開催日	内　　容	担当者
１	６/４(火)	家族と子育て	助　教　宝来　敬章
２	６/１１(火)	望ましい親子関係と子ども理解	助　教　上村　晶
３	６/１８(火)	子どもの生活と保健	教　授　宮﨑　つた子
４	６/２５(火)	子どもの食と栄養	教　授　鷲見　裕子
５	７/２(火)	子どもの心理	准教授　小池　はるか
６	７/９(火)	豊かな子育て環境と音楽	教　授　三宅　啓子

（３）学科年報－２月１日発行

＜キャリア育成学科　オフィスワークコース、オフィス人材育成学科＞

（１）コミュニティカレッジ

オフィス人材育成学科２年の「インストラクタ演習」の受講学生が学習成果を広く地域の方々に還元することと、学んだ成果を実地に試すことを目的に、学科の地域貢献講座として、公開セミナーを実施しました。内容の検討や指導案の作成、パンフやテキストの制作、教材作りなど講座受講者の受け入れの準備作業から当日の講師役や援助役を学生が主に行いました。

内　容　　**「EXCEL 初級」**
日　時　　１月１９日（日）
場　所　　３号館１階ＰＣ教室Ⅱ
受講者　　２０名

ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ　　キャリア育成学科　講師　川喜田　多佳子
講　師　　オフィス人材育成学科　２年「インストラクター演習」受講学生
参加費　　無料

（２）学生と地域の協働企画　学科プロジェクト

Ⅰ．学生が主体となる高田短期大学オリジナル商品開発プロジェクト

【目的】

本プロジェクトでは、学生が主体となって高田短期大学オリジナル商品「やわらか心（日本酒）」を商品化するプロセスを通して、講義で学んだパソコンの機能を活用したり、経営学やマーケティングで学んだことを活かしてチラシ作成、在庫管理を実践的に体験したりすることで学習効果の向上を目的としています。また、主体性、協調性、創造力を養うことが期待されるほか、学外の方々との交流機会を持つことで、社会力を向上させることも狙いとしています。

【活動内容】

・ 本年度は、２４年度に引き続き多気郡大台町の清酒製造所「元坂酒造株式会社」様と津市芸濃町の酒類販売所の「酒伝」様にご協力いただき実施しました。
・ 杉浦ゼミナール１年生１１名が元坂酒造株式会社を訪問し酒蔵を見学、その後、元坂酒造株式会社社長元坂様と酒伝株式会社社長古市様から清酒製造にかける想いなど伺った。
・ 高田短期大学オリジナル日本酒のラベルは、学生がデザインし、１１月に「日本酒ラベルコンテスト」を行い、１位から３位の作品を採用、１５０本製造しました。
・ 高田短期大学オリジナル日本酒の銘は昨年同様、本学の教育理念である「やわらか心」とし、消費者の方々に高田短期大学が目指している理念を伝えるために、「やわらか心」を分かりやすく文章で表現したタグをつけて商品と一体化させ販売する工夫を行いました。
・ 販売促進にむけ販促チラシを情報科目で修得したスキルを活用して作成したほか、会計科目で修得した知識を活かして在庫管理票をエクセルで作成し活用しました。

元坂酒造工場見学①

日本酒ラベルコンテスト準備②

日本酒ラベルコンテスト運営③

記者取材④

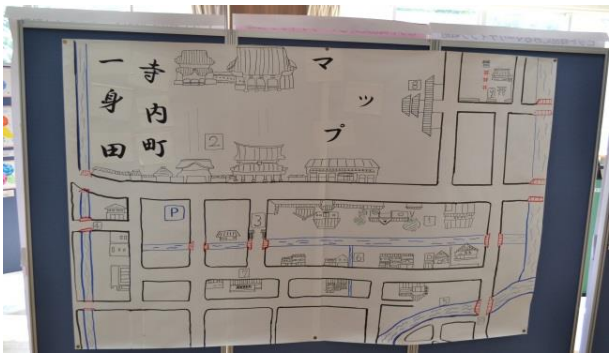
Ⅱ．寺内町ボランティアガイド・サポートプロジェクト

【活動内容】

１年生前期科目の「基礎ゼミナールⅠ」を利用し、実際に寺内町の街並みなどを散策し学生それぞれが他人に紹介したいと思えるお勧めスポットを探し、写真撮影し、「寺内町ボランティアガイド」に必要な案内ツールを作成しました。

前期に収集したボランティアガイドやお勧めスポットに関する情報を紙ベースで残す方法として、

模造紙を用いてガイドマップを作成し、１０月２７日に行われた大学祭において展示しました。また、作成したガイドマップを持ち運び可能なボランティアガイドツールになるよう SD カードや DVD に保存し、「一身田寺内町の館」に提供しました。



（３）その他地域連携

Ⅰ．学生と地域情報ボランティアによる協働講座の運営

－「シニアパソコン教室」及び「地域力創造セミナー☆パソコンの魅力を伝えよう」－

津市中央公民館の協力を得ながら、学生と情報ボランティアが協働して生涯学習の場としてのシニアパソコン教室を永年企画運営しています。昨年度は、「シニアパソコン教室」に加えて、新たに設定した人づくり講座である「地域力創造セミナー☆パソコンの魅力を伝えよう」の企画運営をしました。

「シニアパソコン教室」は、津市中央公民館の課題講座として市報で津市内の６０歳以上の高齢者の参加を募り、本学と津市中央公民館の共催として開催しています。講師役が進行を務め、他のスタッフが受講者の横について指導していくスタイルで、初心者が理解し易い指導に努めています。平成２５年度は、津市中央公民館と共催の生涯学習の場としてシニアパソコン教室を、鷲尾ゼミナール学生１３名と情報ボランティアとが協働して３回開催しました。情報ボランティアの育成をはかるため、月１回の学習会を開催しています。

「地域力創造セミナー☆パソコンの魅力を伝えよう」は、同じく津市中央公民館との共催で、『「学ぶ」から「教える」へ。自分で使うだけでなく、便利で楽しいパソコンの魅力を伝える人になりませんか。実際にパソコン講座で教える体験もします。』をキャッチフレーズに募集をし、２０名の参加がありました。この講座の受講者が、１２月のシニアパソコン教室で援助役を、３月には講師役を体験しました。学生たちとともに、教室の運営等について反省会を開いています。当初講座の意義を知らず参加した人が半分程度おり、最終的には７名と少ないですが、無事に修了し、その後情報ボランティアとして数名の方が活動を始めています。

シニアパソコン教室

開催日	講座タイトル	メイン講師
６月３０日（日）	パソコン入門　インターネット	ボランティア、学生
１２月１５日（日）	パソコン入門　インターネットと年賀状作り	学生
３月２日（日）	パソコン入門　インターネットとカード作り	学生、セミナー受講者

地域力創造セミナー☆パソコンの魅力を伝えよう講座

開催日	講座タイトル	開催場所
１０月１２日（土）	教えることとボランティア	中央公民館
１１月３０日（土）	私が教える教室の企画・構想	中央公民館

１２月１５日（日）	シニアパソコン教室と反省会	高田短期大学
２月１５日（土）	講座の検討・練習	中央公民館
２月２６日（水）	Ａ班リハーサルとテキスト作り（自主講座）	高田短期大学
２月２７日（木）	Ｂ班リハーサル（自主講座）	高田短期大学
３月２日（日）	シニアパソコン教室と反省会	高田短期大学

Ⅱ．自主プロジェクト　　地域と連携した「租税教室プロジェクト」

１．地域と連携した「租税教室プロジェクト」実施の経緯

「租税教室」は税務署が古くから行っている活動で、鈴鹿亀山地区においては鈴鹿税務署と公益社団法人鈴鹿法人会が協働で実施しています。平成２５年７月に三重大学社会連携研究センターから本プロジェクトに対する協力要請を受け、鈴鹿市および亀山市内の市立小学校での「租税教室」に参画しました。

2.「租税教室プロジェクト」活動実績

鈴鹿市に在住しているキャリア育成学科オフィスワークコース１年生を対象に本プロジェクトの趣旨を説明した上で、自主的に参加を申し出た学生９名が研修を経て実際に活動を行いました。実績は次のとおりです。

＜平成２５年度活動＞

７月 鈴鹿法人会青年部会員および三重大学梅村教授と打ち合わせ
９月 鈴鹿市在住の学生を対象にプロジェクトの趣旨説明／参加学生決定
１０月 租税教室に向けた第１回事前勉強会①（鈴鹿税務署、鈴鹿法人会）
１０月 租税教室に向けた第２回事前勉強会（鈴鹿税務署、鈴鹿法人会）
１１月 税を考える週間記念事業「税金クイズ」に参加②（鈴鹿市総合文化会館）
１１月 租税教室に向けた第３回事前勉強会（鈴鹿法人会）
１１月 租税教室に向けた第４回事前勉強会（鈴鹿法人会）
１２月 租税教室に向けた第５回事前勉強会、学内発表会③（鈴鹿法人会）
１２月 e-tax 勉強会開始（鈴鹿税務署、鈴鹿法人会）
１月 第６回勉強会 鈴鹿税務署および鈴鹿法人会による模擬授業の審査④
1－２月 鈴鹿・亀山市内小学校（５校１５時限分）にて租税教室実施⑤

本プロジェクトの活動は、新聞や鈴鹿CATV の CNS にて放送されたほか、神戸小学校の児童が作成した学校新聞にも取り上げていただいた。なお、次年度も引き続き本学と協働で租税教室を進めていきたいと鈴鹿法人会より申し出を受けています。

租税教室に向けた第５回事前勉強会、学内発表会③

鈴鹿税務署および鈴鹿法人会による模擬授業の審査と取材の様子④

鈴鹿・亀山市内小学校にて租税教室実施⑤

＜キャリア育成学科　介護福祉コース、人間介護福祉学科＞

（１）コミュニティカレッジ

Ⅰ．介護技術講習会

例年同様、介護福祉士国家試験の実技試験免除のための講習会である「介護技術講習会」を本学介護実習施設において実施しました。受講者は介護業務に３年以上従事した方で、２３名が講習を修了しました。

開催日　５月２５日（土）、２６日（日）、６月８日（土）、９日（日）

指導者　（主任）キャリア育成学科准教授 福田　洋子、キャリア育成学科講師 織田　紀代子、キャリア育成学科助教 徳山　貴英、特別養護老人ホーム報徳園主任 村田　すま子氏

（２）平成２５年度「高田短期大学教育研究補助事業」プロジェクト（学生と地域の協働企画）

Ⅰ．「介護の現場」体験ツアー

介護福祉に関心のある高校生を対象に実際に介護現場を見て、体験するツアーを実施しました。高校生８名と在学生１１名が教員とともに参加し、施設見学、食事体験、レクリエーション体験などを通して介護への意識を高めました。

開催日　８月２日（金）

場　所　特別養護老人ホーム安濃聖母の家、特別養護老人ホーム報徳園

指導者　キャリア育成学科教授 千草　篤麿、キャリア育成学科准教授 福田　洋子、キャリア育成学科助教 徳山　貴英、安濃聖母の家職員の皆さん、報徳園職員の皆さん

Ⅱ．地域の公民館との連携

地域の公民館などとの連携で、高齢者を本学に招待し、学生と一緒に授業を受けたり、レクリエーションを楽しんだり、昼食を一緒に食べるという企画で、学生にとっても、高齢者にとっても新鮮な取り組みとなりました。

１回目　１０月３０日（水）　参加者　白子公民館より３５名

２回目　　１月２２日（水）　参加者　津長寿研究会より１４名

Ⅲ．福祉施設との連携・協働

今年度も昨年同様特別養護老人ホーム報徳園の職員と本学学生、教員とが連携・共同して入所されている方のためのレクリエーション行事を行いました。授業としての実習とは別に、より自由に、またより主体的に施設利用者と関わることができました。

開催日１月８日（水）　１年生２４名参加

Ⅳ．介護職のための実践キャリア・アップ講座

今年度は鈴鹿市の特別養護老人ホームかなしょうず園を会場として、周辺の施設介護職を対象に、講座を開催しました。１２月から３月まで、毎月１回学科教員が講師を務めました。ただし、３月は会場の施設が入所者のインフルエンザ感染で中止となりました。

①１２月１１日（水）１８：３０～２０：００

「地域の方に選ばれる施設を目指して～あなたのマナー大丈夫ですか？～①」

講師：杉浦　礼子教授

②１月２２日（水）１８：３０～２０：００

「地域の方に選ばれる施設を目指して～あなたのマナー大丈夫ですか？～②」

講師：杉浦　礼子教授

③２月２０日（木１８：３０～２０：００

「特別養護老人ホームにおける「尊厳と自立」を考える」

講師：千草　篤麿教授

④３月１３日（木）１８：３０～２０：００

「看取り介護と医療的ケア」

講師：福田　洋子准教授

（３）学科年報

学科開設時より毎年発行している「高田短期大学人間介護福祉学科年報」の第８号を１１月末に発行しました。専任教員を中心に、学生、卒業生、兼担教員、非常勤講師、特別講師、実習指導者など、多くの人々の原稿によって、充実した内容の年報が発行できました。また、国立国会図書館始め、県内の図書館への寄贈も本学図書館を通して送付しました。実習施設、主な県内福祉施設、県及び各市町社会福祉協議会、県内高等学校等にも配布しました。

（４）卒業生のリカレントセミナー

人間介護福祉学科開設８年目で、卒業生も各施設で活躍するようになり、リカレント教育の要望も出てきましたので、卒業生を対象としたセミナーを２月に開催しましたところ卒業生３７名の出席があり、講演のあと卒業生及び在学生からの報告に基づいてディスカッションを行いました。

＜仏教教育研究センター＞

（１）研究会の開催

・研究テーマ：「真慧上人著『顕正流義鈔』の研究」

高田派中興の祖である真慧上人が著された『顕正流義砂』の研究書を発刊することを目的に毎月１回研究会を開催しました。

（２）仏教教育研究センター公開講座　（高田本山教学部 共催）

地域の方々に仏門、仏教、真宗に触れる機会をご提供することを目的に、高田本山教学部との共催にて、真宗高田派本山宗務院２階「第１会議室」にて開講しました。

第１回　日時　１０月２４日（木）１３：３０～１５：３０

題目　「善導独明仏正意～善導独り仏の正意を明らかにせり～」

講師　本学・龍谷大学非常勤講師、当研究センター研究員　清水谷　正尊氏

参加　　５２名

第２回　日時　１１月　１８日（月）１３：３０～１５：３０

題目　「親鸞聖人のお手紙と二河白道」

講師　高田中・高等学校教諭、当研究センター主任研究員　松山　智道氏

参加　　４６名

※いずれも受講料は無料

（３）仏教基礎講座（高田本山寄附講座）

高田本山からの寄附を基に実施する講座で、仏教や真宗に関する基礎的な内容に加え、真宗高田派の歴史や法宝物に関する知識を学んでいただきました。

日　時　８月１９日（月）～８月２３日（金）９：００～１７：５０

対　象　寺族及び一般者

受講料　無料（但し、テキスト代は実費負担）

教　科　「仏教学」　本学学長、当研究センター研究員　栗原　廣海

「仏教史」　本学特任教授、当研究センター長　金信　昌樹

「真宗学」　高田中・高等学校教諭、当研究センター主任研究員　松山　智道氏

「真宗史」　本学・龍谷大学非常勤講師、当研究センター研究員　清水谷正尊氏

「高田の歴史と法宝物」　真宗高田派本山専修寺　宝物館主幹、当研究センター研究員
新　光晴氏

受講者　４７名

（４）仏教専門講座（高田本山寄附講座）

仏教基礎講座と同じく高田本山からの寄附を基に実施するもので、仏教や真宗に関するより専門的な知識を年間１０回の講座（１１回目として試験日あり）で学んでいただきます。講座科目は隔年で内容が変わり、全１０科目（隔年で５科目）を開講します。この講座は、文部科学省の履修証明制度に則った「履修証明プログラム」として開講し、全１０科目の講座を修了された方には学校教育法第１０５条に基づいた履修証明書を交付します。

日　程　４月１９日（金）、５月３１日（金）、６月２８日（金）、７月２６日（金）、９月２７日（金）
10月18日 (金)、11月29日 (金)、12月20日 (金)、1月31日 (金)、2月28日 (金)、3月7日 (金)

時　間　９時００分～１７時５０分（５０分の昼休憩あり）

対　象　寺族および一般（真宗高田派の教学を学びたい方）

受講料　無料（但し、テキスト代は実費負担）

教　科　「仏教学概説」　真宗高田派本山専修寺宝物館主幹、当研究センター研究員
新　光晴氏

「仏教学講読Ⅰ」　高田中・高等学校非常勤講師、当研究センター研究員
安藤　章仁氏

「真宗学講読Ⅰ」　高田中・高等学校教諭、当研究センター主任研究員
松山　智道氏

「真宗学講読Ⅲ」　当研究センター研究員　佐波　真氏

「高田の宗風」　高田中・高等学校教諭、当研究センター研究員　藤田　正知氏

受講者　６１名

＜育児文化研究センター＞

（１）地域における社会貢献事業

Ⅰ．育児文化室　地域開放事業「おやこひろば　たかたん」

子育て家庭の支援と子育ち・子育て支援の「おやこひろば　たかたん」は３年目を迎え、津市を中心に地域の方々にご利用いただいています。今年度は、大学開講日の月・木曜日をお父さんも参加できる「広場開放日」として活用いただいております。

１）「おやこひろば　たかたん」活動状況と利用者数

日時　毎週月・木曜日１０：００～１２：００　　場所　１号館育児文化室

月	開催日	テーマ	利用者数	支援者
4	（月）1・ 8 ・ 15 （木）4・11 ・ 18・ 25	おやこひろばはじまります！	大人：169 名 子ども：202 名 内新規：20 組	12 名
5	（月）6・ 13 ・ 20 ・ 27 （木）2・ 9 ・ 16 ・ 23 ・ 30	お散歩にでかけよう！	大人：187 名 子ども：217 名 内新規：23 組	8 名
6	（月）3・ 10 ・ 17 ・ 24 （木）6・ 13 ・ 20 ・ 27	七夕飾りをつくろう！	大人：197 名 子ども：215 名 内新規：38 組	10 名
7	（月）1・ 8 ・ 15 ・ 22 ・ 29 （木）4・ 11・ 18・ 25	新聞紙で遊ぼう！	大人：243 名 子ども：264 名 内新規：33 組	17 名+学生 4 名
8	（月）5・ 19 ・ 26 （木）1・ 8 ・ 22 ・ 29	たかたんのおねえさんと遊ぼう！	大人：189 名 子ども：227 名 内新規：16 組	14 名+学生 52 名
9	（月）2・ 9 ・30 （木）5・ 12・ 19・ 26	たかたんのおねえさんと遊ぼう！	大人：205 名 子ども：238 名 内新規：10 組	14 名+学生 18 名
１０	（月）7・ 14 ・21 （木）3・ 10・ 17・ 24・31	散歩・外遊びを楽しもう！	大人：191 子ども：235 名 内新規：11 組	16 名
１１	（月）11・18 ・25 （木）7・ 14・ 21・ 28	散歩・外遊びを楽しもう！	大人：179 名 子ども：221 名 内新規：11 組	16 名+学生 1 名
１２	（月）2・ 9 ・16 （木）5・ 12・ 19・ 26	リズムあそびを楽しもう！	大人：113 名 子ども：131 名 内新規：4 組	15 名+学生 29 名
１	（月）6・20 （木）9・16・ 23・ 30	お正月あそびを楽しもう！	大人：140 名 子ども：183 名 内新規：12 組	18 名+学生 28 名
２	（月）3・ 10 ・17・24 （木）6・ 13・ 20・27	いろいろな遊び方を見つけよう！	大人：165 名 子ども：184 名 内新規：9 組	18 名+学生 6 名
３	（月）3・ 10 ・17・24 （木）6・ 13・ 20・27	大きくなったね！	大人：168 名 子ども：205 名 内新規：7 組	11 名
25 年 4 月～26 年 3 月　延べ人数合計			大人：2,146 名 子ども 2,522 名 内新規：194 組	169 名＋学生 138 名

２）子育て講座

ひろば開催日（月１回）にセンター研究員を講師に子育て講座を開いています。

講座日	テーマ	講　師	参加者数
5/20	「お母さん！自由に話しましょう」	橋本　景子	24 組
6/24	「ほっとひといき　おんがくたいむ　」	山本　敦子	24 組
7/18	「子どもの発達に合った『しつけ』のタイミングとは」	宮﨑つた子	24 組
9/26	「親子で楽しむエクササイズと草花遊び！」	太田　和子	21 組
10/24	「絵本で子育て」	山﨑　征子	22 組
11/18	「絵本って　やっぱりおもしろい！」	岩附　啓子	23 組
12/5	「椿の実で笛をつくろう」	河﨑　道夫	10 組
1/27	「絵本でコミュニケーション」	廣瀬　玲子	19 組
2/20	「もぐもぐ ごっくん」食べる機能に注目	鷲見　裕子	10 人

＊2/20 は母親（親）対象で行いました。

３）子育て相談

子育て講座に加え、子育てに関する心配や
不安を相談できる個別対応の子育て相談事業を
予約制で行いました。

相談日	相談内容
4/22. 8/8. 9/5. 10/17	発達相談４件
5/20. 8/6	食事関係２件
5/6.30. 6/3.27. 7/15.11/18.2/3	健康関係８件

４）ひろば関係研修会

文化室において「乳幼児の救急蘇生」の
研修会を行いました。
津北消防署から「子どもの救急蘇生について」また、

セコムから「設置 AED の使用方法」について説明を
受けました。

日時　８月１９日（月）
場所　１号館育児文化室
参加人数　本学教職員・運営スタッフ
　　地域ボランティア１５名（津市広場関係者３名）

５）その他

・運営スタッフミーティング
開放事業「おやこひろば」運営スタッフと運営委員で構成するミーティングを月１回開催し、ひろばに関する振り返り・課題検討・次回計画等を話し合いました。

・「おやこひろば　たかたん」HP
「ひろば開催日」「活動案内」「活動紹介」等、現在の活動や今後のご案内をしており、活動紹介はブログ形式で写真もひろば開催毎にアップをしました。

Ⅱ．育児文化研究センター主催講演会

昨年度から、子どもたちに自然環境の中での体験活動を取り入れるような企画を行ってきました。その取り組みを受け、今年度は下記の内容で行いました。

日時　２月１日（土）小泉昭男先生講演会
テーマ「自然と遊ぼう　園庭大改造　-命の営みを感じられる園庭に-」
　　第一部　講演会　　13：30～15：00　　大講義室
　　第二部　ワークショップ　15：30～16：30　　カフェテラス
参加人数　保育関係者、学生、教職員　計約 160 人

Ⅲ．研究会

センター研究員の活動の場として定例研究会とグループ研究会を開催しました。

１）定例研究会

第 35 回　定例研究会　７月１１日（木）

研究報告

①池村　　進　研究員「ASEAN 諸国の子どもたちの遊びの実態に関する実践報告」

②山本　敦子　研究員「幼児の合奏導入のための音楽あそび」

第 36 回　定例研究会　１１月１日（金）

研究報告

①小菅千恵子　研究員　「『おやこひろば たかたん』における環境に関する一考察」

②宮﨑つた子　研究員　「子育て支援に関する地域貢献活動の取り組み
-研修会および講演会参加者のアンケート結果より-」

第 37 回　定例研究会　２月１２日（水）

研究報告

①上村　晶　研究員　「幼児の人間関係構築プロセスに関する一考察（2）
-TEM を活用した 3 歳児の「学びの物語」にみる保育者の援助の在り方とは-

②千草　篤麿 研究員　「ある脳性麻痺者の生涯発達と死－角野英男氏からのメール－」

２）グループ研究会

グループ研究①「津市における子育て支援の現状と課題」

グループ研究②「子育て支援のひろばについて」

グループ研究③「子どもの基本的生活習慣の発達基準と育児」

Ⅳ．子育て応援隊活動

平成２４年度からはボランティア活動支援センターと連携を取りながら学内統一の手続きを行っています。今年度も地域から沢山の依頼があり、ボランティア支援センターと連携を取りながら活動を行ってきました。授業や実習などのカリキュラムの関係から、全ての要望や依頼に対応できない時期もありましたが、このような地域での活動は、学生の学びの機会となっています。

回	月日	行事名	活動内容	人数	依頼団体
1	6月23日	日曜参観	親子の触れ合い遊び	６	津市立南立誠幼稚園
2	7月5日	夕涼み会	各コーナーの遊び補助	１４	津市栗真保育園
3	7月6日	ぐみの木まつり	模擬店の補助と保育応援	４	ぐみの木保育園
4	7月7日	ぐみの木まつり	模擬店の補助と保育応援	１	ぐみの木保育園
5	7月7日	キッズおしごと広場	地域企業のイベント補助	１８	三重県立みえこどもの城
6	7月13日	高田保育園夏まつり	夏祭りの各コーナー補助	２０	高田保育園
7	7月13日	ほうりん保育園夏まつり	子どもと盆踊りや各コーナーの手伝い	５	ほうりん保育園
8	7月14日	高岡ほうりん保育園夏まつり	子どもと盆踊りや各コーナーの手伝い	７	高岡ほうりん保育園
9	7月19日	納涼大会	各コーナー企画・運営、バザーの補助	８	まつさか幼稚園
10	7月12日	しんまち夏まつり	バルーンアート	４	津市立新町小学校
11	8月3日	夏祭り	各出店の手伝い	８	さくら保育園
12	8月3日	済美学院納涼祭	各コーナーの手伝い	５	三重済美学院
13	8月15日	ふくしまつり	子どもたちの制作手伝い	７	安濃中央総合公園
14	8月24日	僕も私も忍者に変身講座	子ども達と忍者マイ衣装作成	６	白子公民館
15	8月29日	乳幼児教室	サマーファスタに伴う応援	５	白子公民館
16	10月5日	わくわくフェスタ	あそび広場の企画・運営	２８	みえこどもの城
17	10月6日	わくわくフェスタ	あそび広場の企画・運営	２９	みえこどもの城
18	11 月 24 日	親子で学ぶ命の授業	託児と赤ちゃん抱っこ体験の補助	６	ジェフリー鈴鹿
19	1 月 10 日	子育てひろば「どんぐりこ」	バルーンアート	６	明照児童館
20	2 月 19 日	健康管理教室	バルーンアート(スタッフ練習補助)	２	久居保健センター

Ⅴ．センター便り・育児文化研究紀要

平成 25 年は、育児文化研究センターたよりを１回、紀要 9 号を発行・刊行しました。

(1)「いくぶん」第１７号

(2) 育児文化研究紀要　第９号

Ⅵ．関連会議

(1) センター会議

前期センター会議　　開催日程　４月１６日（火）

＊平成２５年度事業計画について

＊研究報告について：平成２４年度津市委託研究事業　報告者　山﨑・鷲見・宮﨑

後期センター会議　　開催日程１２月４日（水）

＊講演会について：講師　栗原学長：「やさしい仏教保育」

＊その他：平成２５年度報告と平成２６年度に向けて

(2) 拡大運営委員会

第１回　開催日　５月　２日（木）　内容：平成２５年度事業計画について

第２回　開催日　８月２８日（水）　内容：平成２５年度中間報告について

第３回　開催日　２月　６日（木）　内容：平成２５年度報告について

(3) 地域参画関連会議

津市子育ち子育て支援システム地域運営協議会（ICT）

津市子育ち子育て支援ネットワーク会議

みえ次世代育成応援ネットワーク運営会議

＊第８回子育て応援！わくわくフェスタ　１０月５日（土）・６日（日）みえこどもの城
両日とも高田短期大学育児文化研究センター子育て応援隊でボランティアに参加

Ⅶ.　津市委託事業

１．津市ひろば関係者交流会事業（つながりひろば）：年４回開催

第１回　５月２３日（木）イオン久居店　NPO どんと　（５３名参加）
第２回　８月２９日（木）サンデルタ香良洲　　（４６名参加）
第３回１１月１４日（木）津市白山保健福祉センター　（４３名参加）
第４回　２月１３日（木）　まん中こども館　　（２６名参加）

２．支援者事業：親子のかかわり支援（親支援の援助技術）：年２回開催

第１回　６月２７日（木）　対象：子育ち・子育て支援者３０名　　講師：太田　和子氏
第２回１０月２２日（火）　対象：子育ち・子育て支援者２１名　　講師：太田　和子氏

３．親支援事業：子どもとの愛着形成、お母さんのリラクゼーション：年５回開催

第１回　　６月１０日（月）　さつき保育園「キッズ」　　ママのベビーマッサージ
第２回　　６月１７日（月）　子育て支援センターろまん　ママのベビーマッサージ
第３回　　８月１２日（月）　安濃子育て支援センター　　パパのベビーマッサージ
第４・５回　９月　７日（土）　津市美里社会福祉センター　赤ちゃんとパパ&ママ　ファミリー教室

～その他の学内情報～

＜ボランティア活動支援室＞

平成２５年度前期における各学科のボランティア活動は次のとおりです。

	子ども		オフィス		介護福祉	
	人数	件数	人数	件数	人数	件数
社会教育(文化)施設での活動	１６８	１９	４４	７	１０	５
社会福祉施設での活動	１１１	２１	３	１	１５	３
地域まちづくり活動	６０	１２	３７	７	２５	３
地域福祉活動	３１	９	６	２	４	１
教育機関施設	３９	８	２１	５	０	０
その他(海外ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動等)	０	０	２８	２	０	０
合計	４０９	６９	１３９	２４	５４	１２

＜仏教行事委員会＞

学内仏教行事の実施

・新入生本山参詣　開催日　４月　３日（水）参加者　２４１名
　講師　学長　栗原　廣海

・宗祖降誕会　　開催日　５月１３日（月）参加者　３６８名
　講師　子供学科　非常勤講師　清水谷　正尊氏

・灌　仏　会　　開催日　６月１７日（月）参加者　２８３名
　講師　キャリア育成学科特任教授・仏教教育研究センター長　金信　昌樹

・追　弔　会　　開催日　１０月２１日（月）参加者　３８５名
　講師　キャリア育成学科長　鷲尾　敦

・報　恩　講　　開催日　１２月　９日（月）参加者　４０１名
　講師　学長　栗原　廣海

＜図書館＞

大学生の新しい能力の育成や、学生の学びを支える学習環境が大学に求められる中、アクティブラーニングへの取組を目的として、付属図書館内にグループワークエリア、情報検索エリア、プレゼンテーションエリア、サポートエリアなど、学生が柔軟に利用できるようラーニングコモンズスペースを設置しました。スペース内では、IT コンシェルジュを配員し、学習支援サービス、タブレットパソコン等の貸出サービスと共に、操作の支援・補助等学修目的に応じた利用をサポートできる体制を整え、教育･学修方法の改善を図りました。

図書館２・３階は従来通り静かに利用する図書閲覧室とする一方、１階のラーニングコモンズスペースでは会話が自由にできる自律的な学習空間としたことで、グループ学習や交流活動のほかゼミ等で利用しやすいように配慮しました。

グループワークエリア

情報検索エリア

プレゼンテーションエリア

ラウンジエリア

＜施設設備の整備事業の実績及び進捗状況＞

①図書館ラーニングコモンズ構築事業

委託会社　　愛知（株）、（株）システムテクノ、ゼロックス三重（株）
施工費用　　１６，１６８，２２０　円
施工期間　　平成２５年８月～平成２５年９月

②ＰＣ教室整備事業

委託会社　　富士ゼロックス三重（株）、（株）システムテクノ
施工費用　　１４，９６１，７６５　円
施工時期　　平成２５年８月～平成２５年９月

③２・３号館空調設備改修事業

委託業者　（株）藤原工業
施工費用　　４３，８５２，２００　円
施工時期　　平成２５年８月～平成２５年９月

④医療的ケア教育設備整備事業

購入費用　　２，８３５，０００円

高田中学校・高田高等学校＜教育研究活動の実績＞

（１）キャリア教育推進事業

生徒が、進学後の進路選択において、有益な情報を予備知識として、将来社会的、職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するため、この視点に立って日々の教育活動を展開しています。

企業の技術力の中で、働くことの意義や、大学との高大連携を築くことにより専門学部授業を拝聴することで、将来職業人として意識を固めることを目的としてキャリア事業の展開を推し進めてきました。

本年度もキャリア教育を専門とした進路情報の著名人などの講演を受講することにより、更なる自己研鑽に努めることができました。また、高校４年生については、本年も夏休みを利用して現場へ直接出向き体験することにより自分自身が求める将来像について、より一層理解を深めることができました。

今後も、高校１年生の早い時期から将来の職業観を確立させるべくキャリア教育を推進していきます。

＜進路・職業観を考える講演会＞

高Ⅱを対象に４月１５日（月）実施
題目　「自分に合った進学先の選び方」
講師　沖花　裕美子氏（リクルート進学本部）

高４・５年を対象に５月２９日（水）実施
題目　「官僚のすすめ」
講師　名古屋税関長　　中山　峰孝氏（６年制卒・東京大学卒）

高Ⅱ・Ⅲを対象に７月５日（金）実施
題目　各大学による進学説明会
参加校　中部・関西の大学１８校

高Ⅱ・Ⅰ希望者対象にマイナビ主催名古屋フェスタに参加
７月２３日（火）実施
１　大学進学　中京・関西　６６校参加
２　企業・職業人との意見交換
参加者　Ⅱ年（１７０名）　Ⅰ年（５０名）

高大連携推進

鈴鹿医療科学大学との高大連携に関する協定調印式

１１月２５日（月）調印

専門分野についての相談や出前授業、実習、特別授業などの活動を通じて生徒各自の適性を確認し、希望進路を実現していく貴重な機会となることが期待されます。

高Ｉ全員を対象　マイナビ講演　１月１７日（金）実施

講師　マイナビ社員（吉本氏）

題目　大学進学の意義・文理選択を考える時期

＜高４年　校外宿泊学習＞（７月２４日から２６日まで東京を中心とした企業・大学で実施）

～夢への一歩を踏み出そう～をテーマにさまざまな大学、企業等の実際の現場を見学することにより、社会人とはどうあるべきかを体感することにより自己の進路意識を高め、共通の進路希望を持つ友人やクラスメイトと一緒に行動することで、交友関係を広める事を目的で実施しました。

７月２５日の夜は福島大学教授白石　豊氏の「夢をかなえるコツ」をテーマにした講演を拝聴しました。有名人の例を挙げ、目標の設定の仕方や達成への技術について具体的に解説していただきました。なお、２５日は朝から夕方まで本来の目的である生徒自身が興味を持っている分野の先輩・会社等を訪問し、自身の進路方向づけの一助として職業意識の高揚に努めることができました。

また、その研修内容について高校４年生全員に対して１１月２０日（水）に各目的別コース代表者による研修結果発表会を行いました。

（２）部活動の推進事業

生徒の自主的・自発的な参加により行われる部活動は、高い技能に挑戦する中で豊かな学校生活を経験し基礎体力の向上、仲間づくりの場や健康の増進を図ると共に、優れた人間形成を目標に取り組む学校教育の一環としての活動であります。

さらに、生涯に亘ってスポーツや趣味に親しみ、幅広い能力や教養を身につけながら自らを律し、他人を思いやる豊かな人間性を培うことを目的としています。

その事により、在学期間中という長期の期間にわたり、継続して努力する事は、今後の社会生活においても安定した健全な人間関係に繋がるものと考えられます。

練習成果を競う大会において優秀な成績を収めることで、更なる大きな目標である全国・東海大会への出場という意欲が部活動の大きな継続性になっていると考えられます。

平成２５年５月現在のクラブ活動所属生徒数

高等学校	文化部	２５部　４８５名	（男　１４０名・女　３４５名）
	運動部	１９部　６５１名	（男　４１０名・女　２４１名）
	同好会等	４部　５６名	（男　６名・女　５０名）
		計１，１９２名	
中学校	文化部	１５部　１７１名	（男　７５名・女　９６名）
	運動部	１１部　３７４名	（男　２１４名・女　１６０名）
	文芸部	９名	（男　２名・女　７名）
	クリケット愛好会	１３名	（男　１２名・女　１名）
		計　５６７名	

（活動実績）　＜高等学校　運動部　全国大会・東海大会出場クラブ＞

陸上競技走り幅跳び世界ユース第４位入賞
陸上競技走り幅跳び国民体育大会４位入賞
陸上競技走り幅跳びインターハイ３位入賞
馬術競技国民体育大会４位入賞、
新体操、なぎなた、卓球、陸上競技、柔道、軟式野球
ソフトテニス、バトミントン、剣道、バレーボール

＜文化部　全国大会・東海大会出場クラブ＞

将棋、文芸、演劇、俳句

（活動実績）　＜中学校　運動部東海大会出場クラブ＞

馬術、なぎなた

（３）危機管理教育の取り組み

教職員および生徒が、火災、地震など予測不可能な緊急事態が発生した場合、発生時に冷静な判断力、速やかな行動力、を発揮できるよう防災意識を常に意識し、自他共に生命の安全確保に対応できることを目的として毎年２回避難訓練を実施し体に植え付けています。また、校内自衛消防組織を編成しており緊急時対応について教職員への意識付けも行ってまいりました。

また、各地で発生している不審者事件に対しても、朝の打ち合わせ時において全教職員へ発信し、自校の問題として意識付けされるよう周知徹底をはかっています。学校危機管理マニュアルにおいても、校内不審者の侵入対応及び登下校において緊急事態が発生した場合の対応として的確な情報把握に努め、関係機関とも連携を密にすると共に、随時校内パトロールをも行ってきました。

さらにパソコンや端末記憶装置の持ち込み等について、取扱規則を定めて個人情報の漏洩がないように、教職員に意識の徹底をはかっていると共に、学校関係者への誹謗中傷を早期発見するためトータルにサポートする事業（スクールガーディアン）も導入し危機管理に努めています。

保護者へのいろいろな情報発信源として「あんしんネット」、「きずなネット」を利用し最新情報を随時的確に提供しています。

＜避難訓練＞　　８月３１日（土）実施 （目的）地震発生時における生徒の安全確保及び、地震発生時の対策に関する検証確認 （要領）想定状況　　震度６強および大津波警報発令 避難の実働訓練　本年は大津波警報も発令された関係上、全員が３階以上の階に避難する。 概ね１５分で避難完了。
＜緊急地震通報システム利用避難訓練＞　１１月２９日（金）２限目授業中実施 （目的）予告なしの緊急時にどのように安全を確保するか検証 （要領）想定状況　　授業中における身の安全の確保 避難の実動訓練　授業中の状況に応じた身の安全を確保後、担当教員の誘導により避難をする その後防災ノートを利用した身の安全確保の確認 概ね１８分で避難完了

（４）教職員の資質向上事業（初任者研修、学内研修、中部私学研修、就任１０年研修など）

○　新規採用教員研修の推進

初任者研修として中京地区の他の私学教員と８月２１日から２３日までの３日間で合宿研修を実施し、私立学校教員としての実践的指導力と使命感を養うと共に、幅広い識見を習得させることや心構え等について研修を行いました。（本年１名参加）

（講演テーマ）

「私立学校の教員としての心構え」　　日本私学教育研究所長　中川　武夫先生

「高校生の攻撃性と被攻撃性との関係」　名城大学附属高校教頭　金子　恵一先生

さらに本校学内研修として独自に年間１５回の研修を次項の内容で実施し、事務的内容や指導教員が生徒との接し方や指導方法を伝授し、教員として一日でも早い自立を目的として実施しました。

また、終了後は校長教頭を囲んでオフサイトミーティングを行い翌年度の実施計画案に役立てています。

平成 25 年度　初任者研修　年間計画表

	研修テーマ	実施日時	担当者	研修場所
1	初任研ＯＲ	4 月 18 日（水）15 時 40 分～16 時 30 分	伊藤テ	4 号館会議室
2	高田の歴史と建学の精神について	4 月 23 日（火）15 時 40 分～16 時 30 分	学校長	
3	学校法人の規定について	5 月 10 日（木）15 時 40 分～16 時 30 分	河北	
4	教務の実務	5 月 14 日（火）13 時 30 分～14 時 20 分	宮嵜	
5	（中・高教務関係と危機管理）	6 月 12 日（水）15 時 40 分～16 時 30 分	因	
6	人権推進教育	6 月 21 日（金）15 時 40 分～16 時 30 分	松山チ・瀬古	
7		8 月　7 日（水）11 時 00 分～11 時 50 分		
8	生徒指導と教育相談	8 月　7 日（水）11 時 00 分～11 時 50 分	三井	
9		9 月　5 日（木）15 時 40 分～16 時 30 分	黒田	
10	特別支援教育	11 月　5 日（火）15 時 40 分～16 時 30 分	辻井	
11		11 月 13 日（水）15 時 40 分～16 時 30 分	的場	
12	進路指導	12 月　5 日（木）13 時 30 分～14 時 20 分	鈴木キ	
13	コンプライアンス	1 月 15 日（水）15 時 40 分～16 時 30 分	伊藤テ	
14	（服務規程と教育法規）	2 月 12 日（水）15 時 40 分～16 時 30 分	宮嵜	
15	学校自己評価	3 月　4 日（火）13 時 30 分～14 時 20 分	因	

〇教員研修の推進

本年も教員の意識向上とスキルアップを目的として様々な教員研修を推進しました。

他の高校等との同時研修会の場で広く知識や入試情報を求め、自己研鑽の機会を求めるために、教員を外部研修に参加させ、他の私学教員と交流を図りつつスキルアップに努めました。

その他大学ごとの入試問題検討会にも積極的に参加し、大学により毎年変更される問題傾向や入試情報を少しでも生徒に有利な環境に導くべき把握に努めることができました。

１０年経験者研修参加者（本年２名）については、日本私学研究所主催の全国研修に参加し、２泊３日の短い期間ではありますが教育懇談会、分散会、総合討議などにより、同年代の教員が交流することで今後の私立学校をリードするための知識能力がつけられ明日への活力が得られる研修会であります。

その研修内容について職員会議等において報告を行うなどし、他の教員とも情報共有することで確実に教員全体の意識向上につながっており、その成果が生徒へ還元されていくことで、教育の質の向上を図っていこうと考えています。

また、平成２５年度生徒満足度調査においても、「分かる授業、伸ばす授業」が行われていると答えた生徒が約７１%あり、このことは生徒目線での教育がなされていることがうかがえます。

今後も、積極的に講習会や研修会に参加することにより、学内では得ることのできない情報を吸収することで、新人からベテランまでその教員としての資質向上に役立てていくことを目標としていきたいと考えています。

（５）きめ細やかな学習指導の推進

生徒の基礎学力向上を目指すとともに、個性豊かで自立した生徒の育成を目指して通常の綿密な年間計画に基づいた授業は勿論のこと、小テスト、補講、夏期講習といった生徒の進度及び達成度に応じた指導を実施するとともに、担任、教科担任、進路指導部の連携のもと、定期考査後各個人の状況に合わせた個別懇談を実施し進路実現のためのサポートを行うことができました。常にその学年の生徒の学力及び特質に応じたコース及びクラス編成を模索しながらその指導にあたっています。

また、不登校や、精神的な悩みを抱える生徒の増加が見られますが、本校においては教育支援委員会、生徒指導部、各学年、カウンセラーと協力して保護者や生徒の負担を少しでも軽減できるように努め、明るく元気な学校作りに取り組むことができました。

今後も親切丁寧な繰り返し学習や、特に夏期講習については習熟度に応じた個別指導を行うことにより学習意欲と実力向上に努めていき、生徒全体が楽しく充実した学校生活が送れるよう、きめ細かく生徒の実情把握に努力していきます。

（６）命の大切さを考える教育の推進事業

本校の建学精神である「仏教の教え、親鸞聖人の教えに基づく宗教的情操教育」によって、生徒一人ひとりがかけがえのない命を持っていることの大切さを学習しています。

月１回の本山参詣や週１時限の一般仏教において自他共にかけがえのない「命」を尊重し、人間は一人で生きられない存在であり、他者と共感共有し、支え合って生きる重要さに気づかせています。

また、法話を聞くことをとおして、聞くことの大切さ、その受容により共感する大切さを身につけることにつながります。

更には、国の重要文化財の建造物の環境下で先人の伝統技術を知り、その鑑賞を通じて文化財を大切にする精神を養います。

これらの体験活動を基盤として人権学習とも連携しあい、社会でのマナー、コミュニケーション力を向上させ、自然との共生に関心を持って身近な日常生活の中で思いやりと慈しみのある生き方をじっくり養成することができました。

（７）国際交流事業

（目的）

① 国際感覚豊かな人間育成のため、授業や諸行事に参加しながら異国の学生生活を体験し友好を深めること。

② 互いの生活習慣や文化を学び、今後の交流振興に貢献すること。

③ 受け入れ家庭が、生徒と共に学び、生活することにより異文化理解を深めていくこと。
参加生徒においても、ホームステイの関係から家族全体で国際社会に対する目を開いていただくことにより、外国語に対しても興味を抱き卒業後の進路選択に影響を与えた生徒も少なくない状況です。

＜オーストラリア交換留学生受け入れ＞

受入期間　９月１５日（日）～９月２６日（木）

受 入 校	パレード校	１３名（男１３名）	引率教員２名
	セントモニカズ校	６名（女　６名）	引率教員２名

本校授業に参加及びホームスティにより異文化を体験し、伊勢、京都、伊賀、名古屋を訪問し、日本文化の素晴らしさを感じ、日本への興味を抱いてもらうことによりさらなる国際交流に貢献できるものと考えられます。

また、今年で２０年目を迎えることができ、さらなる両校の深まりを推進することができました。

＜オーストラリア交換留学生訪問＞

訪問期間　　３月１４日（金）～２８日（金）

参加者　　生徒　３６名　　引率教員　５名

各家庭での異文化体験は勿論のこと、学校での授業参加によって相互理解を深めるとともに本場の英

会話を体感することにより語学力向上や国際感覚を養う貴重な経験をすることができ、引率教員についてもホームステイすることにより国際人としての姿勢を身につけることができました。

＜シンガポール交換留学生＞

本年度より諸事情により相互留学は中止となりました。

（８）自己点検・評価等推進事業

（趣旨）

「学校の教育目標や教育活動の内容・方法、教育成果、学校の管理運営などについて、より一層の教育活動の充実を図る」趣旨で教育活動全般にわたる自己点検・評価を行い、継続的な改善更新、改革を図っています。

昨年度の総評をふまえ中高共に、問題点として社会の基盤となるマナー面でやや欠ける点が見られるのでその点を重点的に留意し指導していく必要があると考えられます。

（平成２５年度の目標）

基本的に３カ年計画での実施としていますが、目指す学校像としては大きな変化はなく生徒の入れ替わりもある関係上、継続的な評価を行ったため大幅な見直しではなく、現在の教育目標をより実現する具体的目標、手法としての重点努力目標の継続発展を図っていきます。

◇目指す学校像（教育理念）

生徒・保護者・社会の期待に応え、伝統を重んじ信頼される私学を目指す。

◇校訓「言行忠信　表裏相応」の精神のもと、人間性豊かな人材を育成する。

◇崇高な志と社会に貢献できる人材を育成する。

◇自分の夢の実現に向けて、自ら学び、自己を律し、行動できる人材を育成する。

＜重点努力目標＞

人間的豊かさを深め、個性の伸長をはかる。基本的生活習慣を確立させ、規律ある行動力を育成する。学力の向上・錬磨。環境・安全教育の推進。世界に貢献できる人材を育成する。

（点検・評価の日程）	
１　平成２５年　４月	前年度学校自己評価への評価結果報告及び継続的取組の促進
２　平成２５年１２月	評価項目の確認と評価方法の決定 （今年度評価項目については、評価結果の継続的推移把握）
３　平成２６年３月初旬	評価実施
４　平成２６年３月末	集計と分析
５　平成２６年　４月	職員への結果の公表
６　平成２６年　５月	評価結果の公表

＜総　評＞

（高校）

概ね評価が高い水準で推移している。生徒の自主・自律を促す取り組みについては評価が上昇している。

評価を落としている項目は、校内実力テストの活用で入学時より徐々に開きつつある生徒個々の学力を共通した一つの問題ではかることが難しくなってきており、そのあり方が話し合われている。

また、コース・類・学年により目的が異なることもあり、教員間のコンセンサスも希薄なところが見られ低評価となっている。

（中　学）

授業を重視する姿勢は保たれ、授業内容の充実度は高く、補習も綿密に実施されている。

しかしながら全体的に評価は下降気味にあり、相変わらずマナーや規範意識に関わる項目では評価が低くその対応と処理の増加が他の教育活動評価に関与しているものと考えられる。

今後は抑止・防止を旨とした全体指導・個別指導を行いつつ、より充実感のある完成度の高い教育活動を展開していきたい。

（９）科学技術学習探求事業

本校ではサイエンス・パートナーシップ・プロジェクト（ＳＰＰ）に取り組んで、５年が経過しました。

Ⅱ類数理コースを開設し３年間一貫の学習指導を実施すると共に、科学技術に対するモチベーションを高める課外活動を積極的に取り入れており、この事業での学習体験が山積みする課題を解決し、未来に貢献し、活躍する人材の育成に結びついていくことを確信しています。

Ⅱ類数理コース在籍者数（平成２５年５月１日現在）

３年生　１９名　　２年生２２名　　１年生２６名　　合計６７名

数理コースは文理コースより数学、物理の授業時間を多く実施し早くから体験型探求入門講座と位置づけし、１・２年は高大連携体制で、生徒の理数系への興味、関心を深めることを目的として、多くの理数系大学と連携し知的研究心を育成しています。平成２５年７月５日（金）～８月３１日（土）までを通し高校Ｉ年生対象にして、「エネルギー・環境科学入門」として豊田工業大学・核融合科学研究所・ＮＰＯ法人奥矢作森林塾の協力のもと、環境の授業に取り組みました。（参加数　２６名）

題目　「植物から太陽電池を作ろう」　豊田工業大学講座

「人工林と原生林」　森林塾講座

「核融合炉体本体見学」　核融合科学研究所

特に夏休みを利用した校外学習では、独立行政法人科学技術振興機構（JST）が主催する「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト（SPP）」講座を利用し、次代を担う人材への理数教育の拡大を図るべき授業を実施しています。

高校Ⅱ年生については三重大学との連携講座として「環境科学の最前線」としてＩ年生よりもう一歩踏み込んだ自然の現象についての授業に取り組みました。

テーマ「ラジオゾンデによる気象観測」「地球史実習」
「勢水丸海洋調査」「風力・太陽光発電の電力制御」
上記講座に総数２２名が参加しました。
その他実習
鳥羽水族館実習「ウニの発生観察実習」　高Ⅱ・５年で７３名の参加
三重大学医学部による医学講演会や研究室訪問など積極的な事業展開を実施してきました。
講座修了後は、Ⅰ年・Ⅱ年合同で成果発表会を開催し他生徒への興味関心を深めています。

（１０）教職員海外研修事業

１）三重県私学総連合会私学教職員海外研究派遣事業

①派遣教諭　　片山　淳
視 察 先　　イタリア
視察期間　　８月６日（火）～８月１３日（火）
＜視察・研究内容＞
「地球環境は親の世代からもらったものではなく、子の世代から借りたものだ」という言葉があるように、世界遺産をはじめ文化財、歴史的景観を保護する精神に感謝しつつ、自然環境と同様に文化的環境を次世代に残す責任を改めて強く感じた研修であり、そのことを生徒に伝授していきたい。

２）高田中・高等学校教職員海外研究派遣事業
②派遣教諭　　鷲尾　尚史
視 察 先　　ロシア
視察期間　　８月２日（金）～８月１０日（土）
＜視察・研究内容＞
ロシアは世界でも有数の大国であるにもかかわらず、日本ではその実情がほとんど知られていない。しかしながら、日本と関わることも多々あり現場へ足を運ぶことにより、その実態がわかるようになったことは、ありがたい研修であった。

３）高田中・高等学校教職員海外派遣事業
③派遣教諭　　山口　慶子
視 察 先　　カナダ
視察期間　　８月１２日（月）～８月１８日（日）
＜視察・研究内容＞
雄大な大国カナダを訪れることにより、数々の自然と出会うことができ日本では味わうことができない自然現象のすばらしさを、今後の芸術授業で生徒へ伝授していきたい。

（１１）人権教育研修の推進

本校においては、定期的に人権教育委員会を開催し、教職員の人権意識向上に努めると共に、生徒達には「うわさや偏見に流されず真実を確かめ自分自身の考えを持つ」「差別に立ち向かい行動する力をつける」「他者の異なった価値観を尊重しながら仲間同士のつながりを強める」ということを目指しました。

本年も人権センター主催の研修会や各地区人権教育推進協議会主催の講演会・中勢地区高人教への積極参加することにより、教職員の人権意識向上に努めると共に、学苑本部主催の夏期研修人権講演会「ひとり芝居朝ちゃん」を保護者や地域住民と共に観劇し命の大切さを痛切に感じられた。

また、毎年教職員が行っているフィールドワークについての有志の生徒も参加し、人権問題について積極的に取り組んでいる地域、組織に出向いて直接体感することで感じ得たことを自ら再認識し、生徒への教育の一環として還元しています。

人権教育については、学校のみでは推進することが難しいので、今後は地域や家庭との連携が重要と考えられます。

（１２）高田中・高等学校広報活動事業

少子化が進む中ますます生徒確保が難しくなってくる時代に、突入します。その状況下の元、将来を見据えた募集活動の展開が必要になってくると考えられます。

＜小学生を対象とした「学びの広場ＩＮ高田」の開催＞

いかにして生徒確保を行うか重要な問題となっている昨今、私立中学校の魅力を最大限に発揮し、多くの小学生が高田中学校を目標とするべく興味あるイベントに取り組んでおり、その一貫としてより知っていただくために小学生（４・５年生）を対象とした「学びのひろばＩＮ高田」を年３回開催し、情報発信に努めており、例年多くの方が参加していただいています。

このことは、高田中学校の信頼がある証だと考えられるので、この状況を継続していく必要があろうかと考えます。

開催内容

①　８月２５日（日）テーマ・プラネタリウム「四季の星座」（定員：　６０名）
・英語で遊ぼう
・親子で楽しむ「算数マジック」
・おもしろ日本語教室　　参加　１４６名

②　１１月　９日（土）テーマ・たかだ算数オリンピック（定員：２００名）
・～中学校の部活動を体験しよう～
参加　１２１名

③　２月１６日（日）テーマ・たのしい理科実験　（定員：　６０名）
・おもしろ歴史教室
・Let’s　cooking　　参加　１６１名

以上のイベントの他、広くマスコミを利用した広報活動や、塾を対象とした説明会を積極的に実施し、各地域で開催される私立中学展に出向いてＰＲに努めています。

中学入試説明会実施日　９月２３日（月、祝）実施　　３５８世帯参加

＜高等学校公開イベント・オープンキャンパス・個別見学会＞

高等学校に関しては、少子化が進む中、教員が１学期半ばから各中学校を訪問し受験生と保護者に対し入試関連内容を詳細に説明し、より高田の魅力を提供しています。

その結果、高田高等学校へ入学したいという生徒が着実に増えています。

各中学校訪問以外にオープンキャンパス　８月２４日（土）実施　　保護者共に約１，５００名が参加さらにより深く知りたい生徒並びに保護者に対して個別見学会を４回開催しました。

１０月　５日（土）参加者　生徒２２名　保護者１４名
１１月　２日（土）参加者　生徒３１名　保護者１８名
１１月１６日（土）参加者　生徒２８名　保護者１６名
１２月　７日（土）参加者　生徒３６名　保護者２０名

学校生活や授業内容およびクラブ活動について詳細に説明をし、明るく楽しい学校生活をすごしていただくべく事前ＰＲに努めています。

また、経済的に苦しい家庭においても高等教育が安心して受けられるよう国の就学支援制度、県の減免制度に加え、さらに高田中・高等学校独自の助成制度も充実させています。（対象基準は就学支援金加算制度と同基準）　　平成２６年３月３１日現在　助成対象者　１４４名

（１３）学校安全・保健計画の推進

学校安全管理の立場から交通ルールの遵守、自転車の安全な乗り方指導を中学１年・高校１年の新入生を対象に自動車学校指導員により、実際に起こりうる可能性の高い事象に対し指導員と生徒でデモンストレーションを行い、安全意識の高揚につなげました。

校内安全点検などを実施すると共に、津市教育委員会補導センターと共同で毎月市内の生徒が集まりそうな場所を重点的に巡回指導を行っています。

また、生徒と教員が街頭登下校指導をするなどマナーアップや安全意識の高揚に努めています。

次に学校保健の立場から、校医健診や他の各種検査を通じ生徒個々の健康状態を把握し、常に健康管理に努めると共に、保健だよりを毎月発行しその時期の内容に合った啓発に努めています。

新たな感染症が発生した場合などの緊急対策や予防教育の推進についても積極的な取り組みに努めています。

＜施設整備実績及び進捗状況＞

①　　第一体育館外壁改修その他工事

施工期間　　６月２４日～９月１４日

施工業者　　（株）辻工務店

設計管理　　（株）中部都市建築設計事務所

総事業費　　７２，３４５，０００円

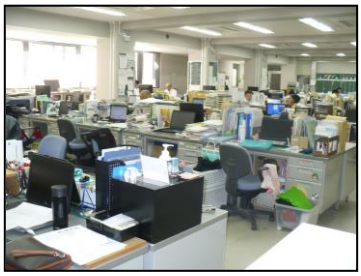
②　教職員ノートパソコン（２１０台）・複合機（プリンター５台）等購入

施工期間　　７月２２日～８月２８日

納入業者　　富士ゼロックス三重（株）

設定管理　　（株）システムテクノ

事 業 費　　２６，１３４，８４５円



4 財務の概要

（1） 資金収支計算書の概要

資金収支計算書は、会計年度の教育・研究その他の活動に対応するすべての収支内容並びに支払資金の収支のてん末を明らかにしたものです。

本学苑の資金収支決算総額は41億4,500万円となり、前年度の決算額と比較し4億円の減額となりました。

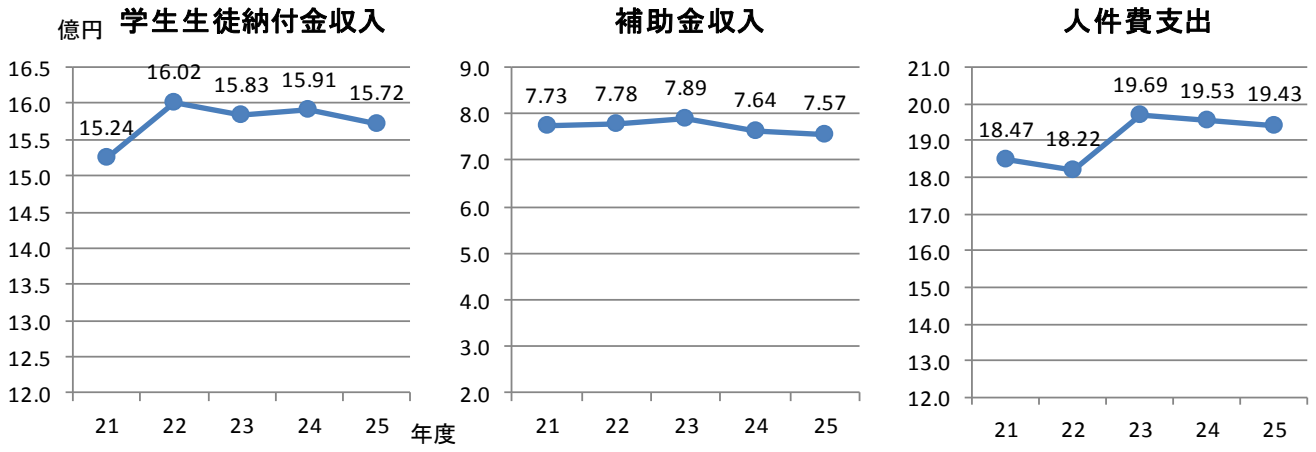
平成25年度　資 金 収 支 計 算 書 総 括

（単位：千円）

収入の部			支出の部		
科　目	決　算	前年比	科　目	決　算	前年比
学生生徒等納付金収入	1,572,130	▼ 19,829	人件費支出	1,943,239	▼ 9,470
手数料収入	53,948	136	教育研究経費支出	374,760	87,345
寄付金収入	5,923	▼ 1,177	管理経費支出	86,634	1,825
補助金収入	757,458	▼ 6,270	借入金等利息支出	0	▼ 690
資産運用収入	10,829	▼ 9,443	借入金等返済支出	0	▼ 100,000
資産売却収入	750	587	施設関係支出	50,128	30,834
事業収入	13,988	3,241	設備関係支出	40,597	5,869
雑収入	187,988	8,307	資産運用支出	224,640	▼ 176,840
前受金収入	287,629	▼ 20,799	その他の支出	1,221,507	▼ 168,086
その他の収入	1,442,983	▼ 310,234	資金支出調整勘定	△ 40,105	▼ 6,026
資金収入調整勘定	△ 498,067	▼ 7,478			
当年度収入合計	3,835,560	▼ 362,957	当年度支出合計	3,901,398	▼ 335,241
前年度繰越支払資金	309,278	▼ 38,122	次年度繰越支払資金	243,440	▼ 65,838
収入の部合計	4,144,838	▼ 401,079	支出の部合計	4,144,838	▼ 401,079

（注）△は計算書式上のマイナス表示、▼は比較上のマイナス表示（以下同じ）。
　　前年比は平成24年度決算との比較です。

主要科目推移表（平成21～25年度）



平成25年度　資金収支計算書（短期大学）

（単位：千円）

収入の部			支出の部		
科　　目	決　　算	前年比	科　　目	決　　算	前年比
学生生徒等納付金収入	435,119	▼ 7,820	人　件　費　支　出	432,158	8,975
手　数　料　収　入	8,533	▼ 707	教育研究経費支出	148,515	28,492
寄　付　金　収　入	0	▼ 600	管　理　経　費　支　出	32,152	▼ 523
補　助　金　収　入	125,993	5,275	施　設　関　係　支　出	17,274	17,274
資　産　運　用　収　入	3,447	302	設　備　関　係　支　出	32,196	18,865
資　産　売　却　収　入	0	▼ 163	そ　の　他　の　支　出	140,210	▼ 38,197
事　業　収　入	13,988	3,241	資金支出調整勘定	△ 15,860	▼ 5,874
雑　収　入	35,579	7,410			
前　受　金　収　入	59,529	2,836			
そ　の　他　の　収　入	123,949	6,173			
資金収入調整勘定	△ 106,263	▼ 10,980			
当年度収入合計	699,873	4,967	当年度支出合計	786,645	29,012
前年度繰越支払資金	97,905	▼ 65,402	次年度繰越支払資金	69,318	▼ 28,587
収入の部合計	797,778	▼ 60,435	支出の部合計	855,963	425

平成25年度　資金収支計算書（中高等学校）

（単位：千円）

収入の部			支出の部		
科　　目	決　　算	前年比	科　　目	決　　算	前年比
学生生徒等納付金収入	1,137,012	▼ 12,009	人　件　費　支　出	1,500,937	▼ 18,292
手　数　料　収　入	45,415	843	教育研究経費支出	226,245	58,853
寄　付　金　収　入	2,723	▼ 85	管　理　経　費　支　出	35,763	4,128
補　助　金　収　入	631,466	▼ 11,544	施　設　関　係　支　出	32,854	13,560
資　産　運　用　収　入	3,672	579	設　備　関　係　支　出	8,256	▼ 13,142
雑　収　入	151,811	1,185	そ　の　他　の　支　出	893,317	▼ 106,834
前　受　金　収　入	228,100	▼ 23,635	資金支出調整勘定	△ 21,474	▼ 102
そ　の　他　の　収　入	1,010,648	▼ 95,423			
資金収入調整勘定	△ 391,804	3,003			
当年度収入合計	2,819,042	▼ 137,086	当年度支出合計	2,675,897	▼ 61,830
前年度繰越支払資金	164,357	20,280	次年度繰越支払資金	125,477	▼ 38,879
収入の部合計	2,983,399	▼ 116,806	支出の部合計	2,801,374	▼ 100,709

（2） 消費収支計算書の概要

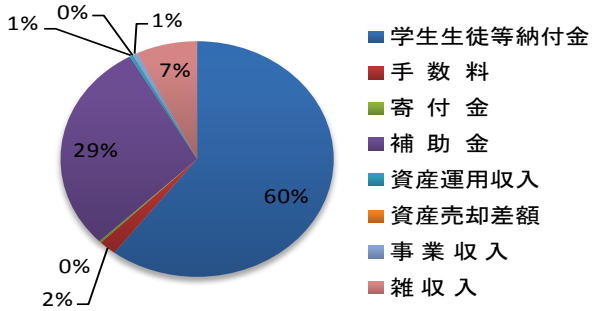
消費収支計算書は、当該会計年度の帰属収入、基本金組入額、消費収入及び消費支出の内容並びに消費収支の均衡状態を示すものです。

平成25年度　消　費　収　支　計　算　書　総　括

（単位：千円）

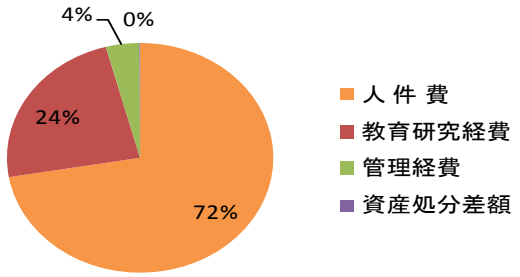
収入の部			支出の部		
科　　目	決　　算	前年比	科　　目	決　　算	前年比
学生生徒等納付金	1,572,130	▼ 19,829	人　件　費	1,930,499	453
手　数　料	53,948	136	教育研究経費	628,301	64,019
寄　付　金	6,682	▼ 762	（うち、減価償却額）	(253,462)	(▼ 23,405)
補　助　金	757,458	▼ 6,270	管理経費	108,470	5,839
資産運用収入	10,829	▼ 9,443	（うち、減価償却額）	(17,585)	(▼ 64)
資産売却差額	750	587	借入金等利息	0	▼ 690
事　業　収　入	13,988	3,242	資産処分差額	2,527	1,997
雑　収　入	187,988	8,307			
帰属収入合計	2,603,774	▼ 24,031			
基本金組入額	△ 9,611	179,018			
消費収入の部合計	2,594,163	154,987	消費支出の部合計	2,669,797	71,618
			当年度消費支出超過額	75,634	▼ 83,369
			前年度繰越消費支出超過額	3,627,042	159,003
			翌年度繰越消費支出超過額	3,702,676	75,634

帰属収入構成比



帰属収入　26億380万円

消費支出構成比（対帰属収入比）



消費支出　26億7,000万円

○帰属収入

帰属収入とは、学校法人の負債とならない収入で、学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金、資産運用収入、雑収入等が含まれます。

○基本金組入額

基本金組入額とは、学校法人の永続的維持に必要な資産を継続的に保持するために、維持すべきものとして帰属収入のうちから組入れた金額です。

基本金には、第1号基本金から第4号基本金まで、4種類の基本金があります。

第1号基本金は、施設設備の整備拡充のために支出した金額であり、平成25年度の組入額は約960万円となりました。

主な内訳は、短期大学の図書館1階改修工事及び中高等学校の第一体育館トイレ改修工事等によるものです。

第2号基本金は、施設設備を取得するために、事前に組入れる金額で、平成25年度はありませんでした。

第3号基本金は、教育・研究活動の維持向上を目的とした教育研究基金、奨学基金等の設定であり、本学苑は組入れを行っていません。

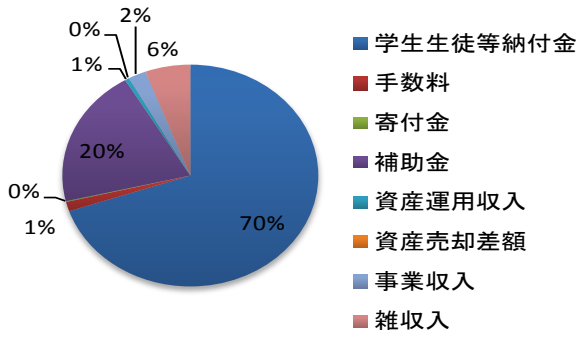
第4号基本金は、恒常的に保持すべき資金の額の設定であり、平成25年度の組入額はありませんでした。

平成25年度 消費収支計算書（短期大学）

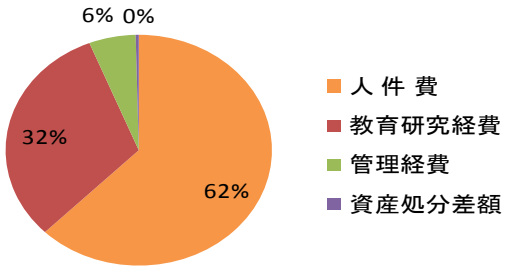
（単位：千円）

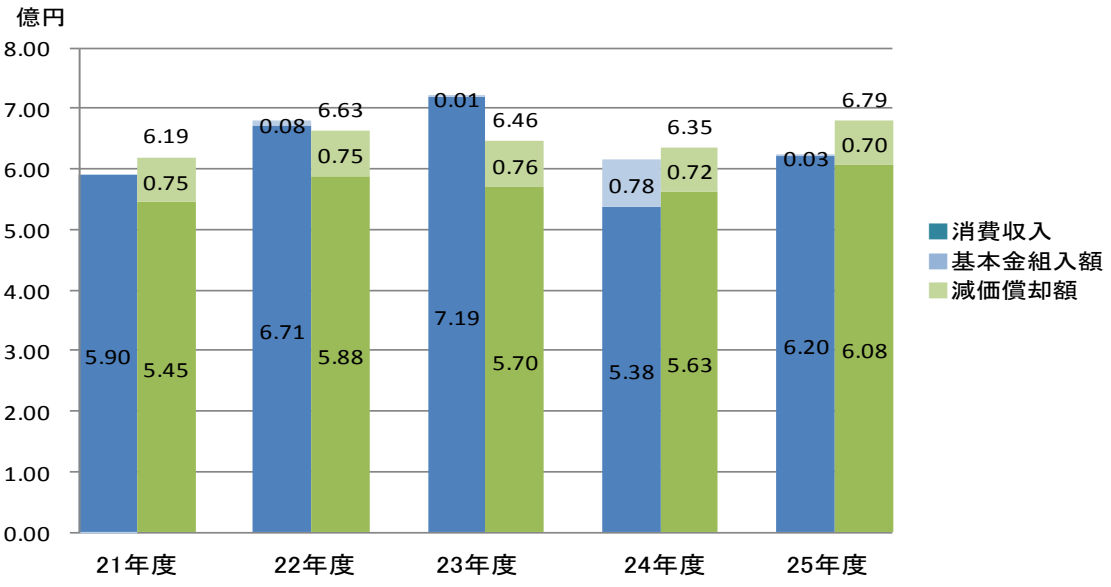
収入の部			支出の部		
科目	決算	前年比	科目	決算	前年比
学生生徒等納付金	435,119	▼ 7,820	人件費	423,731	14,032
手数料	8,533	▼ 707	教育研究経費	213,863	27,390
寄付金	733	▼ 192	（うち、減価償却額）	(65,269)	(▼ 1,181)
補助金	125,993	5,275	管理経費	38,514	268
資産運用収入	3,447	302	（うち、減価償却額）	(5,480)	(▼ 56)
資産売却差額	0	▼ 163	資産処分差額	2,527	1,997
事業収入	13,988	3,241			
雑収入	35,579	7,410			
帰属収入合計	623,392	7,347			
基本金組入額	△ 3,072	74,739			
消費収入の部合計	620,320	82,086	消費支出の部合計	678,635	43,688
			当年度消費支出超過額	58,315	▼ 38,398
			前年度繰越消費支出超過額	2,316,205	96,714
			翌年度繰越消費支出超過額	2,374,519	58,315

帰属収入構成比



消費支出構成比（対帰属収入比）



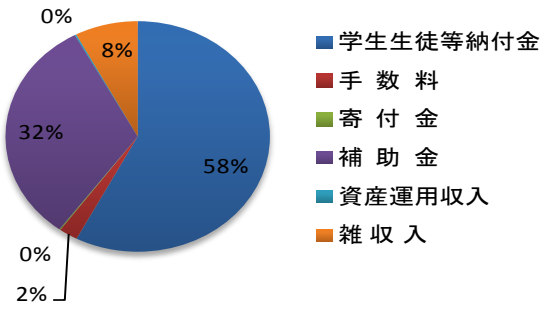


平成25年度 消費収支計算書（中高等学校）

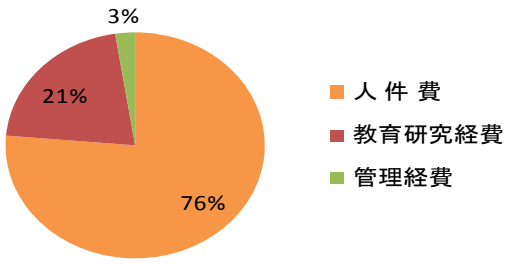
（単位：千円）

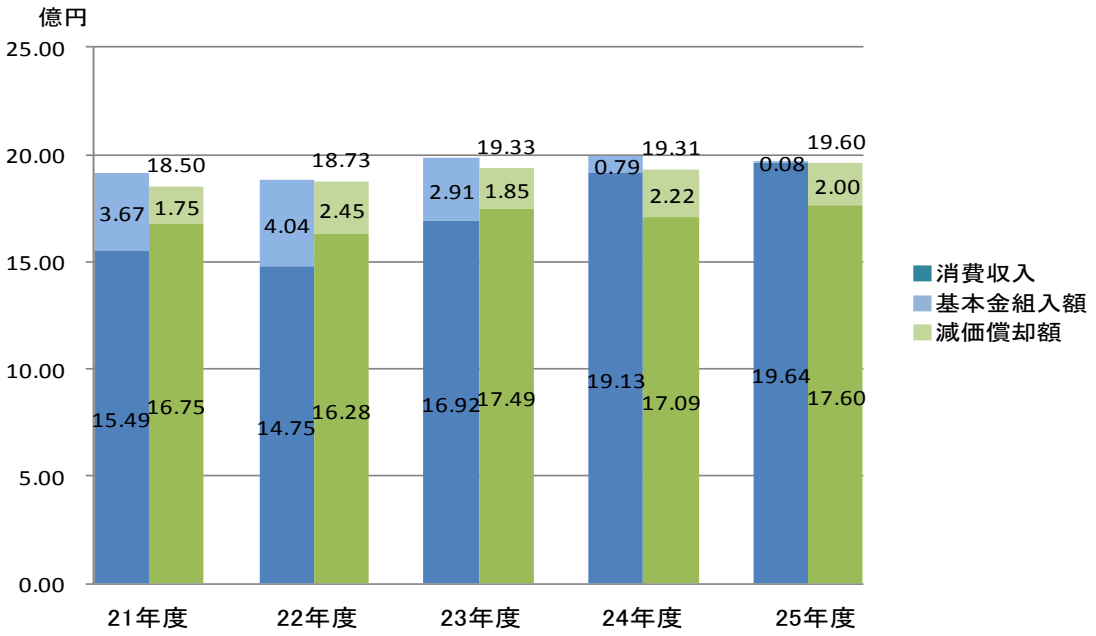
収入の部			支出の部		
科目	決算	前年比	科目	決算	前年比
学生生徒等納付金	1,137,012	▼ 12,009	人件費	1,496,625	▼ 13,425
手数料	45,415	843	教育研究経費	414,438	36,629
寄付金	2,737	▼ 84	（うち、減価償却額）	(188,193)	(▼ 22,224)
補助金	631,466	▼ 11,544	管理経費	48,379	4,992
資産運用収入	3,672	579	（うち、減価償却額）	(11,746)	(41)
雑収入	151,811	1,185			
帰属収入合計	1,972,112	▼ 21,031			
基本金組入額	△ 7,494	72,449			
消費収入の部合計	1,964,618	51,418	消費支出の部合計	1,959,441	28,195
			当年度消費収入超過額	5,176	23,223
			前年度繰越消費収入超過額	480,470	▼ 18,047
			翌年度繰越消費収入超過額	485,646	5,176

帰属収入構成比



消費支出構成比（対帰属収入比）





平成25年度　補 助 金 一 覧 表

（単位：千円）

補　助　金　名	当　年　度 ①	前　年　度 ②	差　異 ① － ②
短期大学補助金合計	**125,993**	**120,718**	**5,275**
国庫補助金計	**125,913**	**119,610**	**6,303**
私立大学等経常費補助金	110,505	111,935	△ 1,430
私立学校施設整備補助金（ICT）	13,880	3,745	10,135
私立大学等研究設備整備費等補助金（医療的ケア）	1,348		1,348
障害者介助等助成金	180	360	△ 180
特定求職者雇用開発助成金		340	△ 340
子どもゆめ基金助成金		305	△ 305
科学研究費補助金		2,925	△ 2,925
地方公共団体補助金計	**80**	**1,108**	**△ 1,028**
結核健康診断予防接種費補助金	80	71	9
キャリア形成訪問指導事業費補助金		1,037	△ 1,037
中・高補助金合計	**631,465**	**643,010**	**△ 11,545**
高等学校補助金計	**490,903**	**497,165**	**△ 6,262**
国庫補助金計	**0**	**2,598**	**△ 2,598**
私立大学等研究設備整備費等補助金（IT補助）		2,258	△ 2,258
特定求職者雇用開発助成金		340	△ 340
地方公共団体補助金計	**487,679**	**491,407**	**△ 3,728**
私立高等学校等振興補助金	479,318	483,014	△ 3,696
授業料減免補助金	5,641	5,168	473
授業料減免補助金（特例措置事業分）	59	223	△ 164
入学金補助金	1,035	855	180
人権教育推進事業費補助金	438	953	△ 515
結核健康診断予防接種費補助金	212	212	0
外国人語学指導助手補助金	300	300	0
教育改革推進事業補助金	600	600	0
人権を考える児童・生徒の集い開催事業	76	82	△ 6
市町村補助金計	**3,224**	**3,160**	**64**
私立高等学校振興補助金　津　市	2,698	2,650	48
私立高等学校振興補助金　鈴鹿市	377	371	6
津市国際交流事業補助金	100	100	0
スポーツ奨励補助金	50	39	11
中学校補助金計	**140,562**	**145,845**	**△ 5,283**
国庫補助金計	**0**	**753**	**△ 753**
私立大学等研究設備整備費等補助金（IT）		753	△ 753
地方公共団体補助金計	**140,562**	**145,092**	**△ 4,530**
私立高等学校等振興補助金	140,409	145,010	△ 4,601
私立学校人権教育推進補助金	77		77
人権を考える児童・生徒の集い開催事業	76	82	△ 6
短大、中・高補助金　総　計	**757,458**	**763,728**	**△ 6,270**

（3） 貸借対照表の概要

貸借対照表は、平成26年3月31日現在の財政状態を示しています。

平成25年度 貸借対照表（総括）

（単位：千円）

科　　目	本年度末	前年度末	増　　減
固定資産	**7,687,257**	**7,770,288**	**△ 83,032**
有形 固定 資産	**6,696,177**	**6,878,278**	**△ 182,100**
土　　地	865,121	865,121	0
建　　物	4,666,572	4,810,511	△ 143,938
構　築　物	784,721	833,415	△ 48,695
教育研究用機器備品	124,178	119,647	4,531
その他の機器備品	6,064	7,453	△ 1,388
図　　書	213,316	212,111	1,205
車　　輌	6,286	100	6,186
学　苑　林	29,919	29,919	0
その他の固定資産	**991,079**	**892,011**	**99,068**
借　地　権	2,258	2,258	0
電 話 加 入 権	1,286	1,286	0
施 設 利 用 権	821	902	△ 81
有 価 証 券	2,854	2,854	0
差し入れ保証金	350	350	0
退職給与引当特定資産	261,009	261,009	0
施設設備拡充引当特定資産	594,750	491,480	103,270
長期火災保険特定資産	112,478	112,478	0
長 期 前 払 金	15,274	19,395	△ 4,121
流動資産	**532,362**	**541,734**	**△ 9,372**
現 金 預 金	243,440	309,278	△ 65,838
未 収 入 金	189,639	172,225	17,414
立　替　金	37,737	550	37,187
修学旅行費預り資産	55,567	56,359	△ 792
卒業諸費預り資産	5,544	3,150	2,394
前　払　金	436	172	264
資産の部合計	**8,219,618**	**8,312,022**	△ 92,404
固定負債	**244,630**	**257,370**	**△ 12,740**
退職給与引当金	244,630	257,370	△ 12,740
流動負債	**417,322**	**430,962**	**△ 13,640**
未　払　金	39,933	33,798	6,135
前　受　金	287,629	308,428	△ 20,799
預　り　金	28,649	29,227	△ 578
修学旅行費預り金	55,567	56,359	△ 792
卒業諸費預り金	5,544	3,150	2,394
負債の部合計	**661,952**	**688,332**	**△ 26,380**
第1号　基本金	11,079,343	11,069,732	9,611
第4号　基本金	181,000	181,000	0
基本金の部合計	**11,260,343**	**11,250,732**	**9,611**
翌年度繰越消費支出超過額	3,702,676	3,627,042	75,634
消費収支差額の部合計	△ 3,702,676	△ 3,627,042	△ 75,634
負債の部、基本金の部、及び消費収支差額	8,219,618	8,312,022	△ 92,404

注記　1．重要な会計方針

①引当金の計上基準

○徴収不能引当金・・・・・・・・・・・・未収入金の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。

○退職給与引当金

（短　期　大　学）　退職金の支給に備えるため、期末要支給額　104,897,485　円の１００％を基にして私立大学退職金財団に対する掛金の累積額と交付金の累積額との繰入調整額を加減した金額を計上している。

（中学校及び高等学校）　退職金の支給に備えるため、期末要支給額　957,475,392　円から三重県私学振興会より交付金相当額を控除した金額の１００％を計上している。

②その他重要な会計方針

○有価証券の評価基準及び評価方法

＊移動平均法に基づく原価法である。

2．重要な会計方針の変更等

該当なし

3．減価償却額の累計額の合計額　**4,414,938,094円**

4．徴収不能引当金の合計額　**0円**

5．担保に供されている資産の種類及び額　**0円**

6．翌会計年度以降の会計年度において基本金へ組入れを行うこととなる金額　**6,218,106円**

7．その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

有価証券の時価情報　（単位：円）

種　　類	勘定科目	当年度（平成２６年３月３１日）		
		貸借対照表計上額	時　　価	差　　額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの（うち満期保有目的の債券）	有価証券	2,853,674	18,873,232	16,019,558
		(0)	(0)	(0)
	退職給与引当特定資産	48,518,500	81,643,600	33,125,100
		(48,518,500)	(81,643,600)	(33,125,100)
	施設設備拡充引当特定資産	230,000,000	234,732,000	4,732,000
		(0)	(0)	(0)
小計（うち満期保有目的の債券）		281,372,174	335,248,832	53,876,658
		(48,518,500)	(81,643,600)	(33,125,100)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの（うち満期保有目的の債券）	施設設備拡充引当特定資産	120,000,000	119,972,000	△28,000
		(100,000,000)	(100,000,000)	(0)
小計（うち満期保有目的の債券）		120,000,000	119,972,000	△28,000
		(100,000,000)	(100,000,000)	(0)
合計（うち満期保有目的の債券）		401,372,174	455,220,832	53,848,658
		(148,518,500)	(181,643,600)	(33,125,100)

（4）財務比率推移表

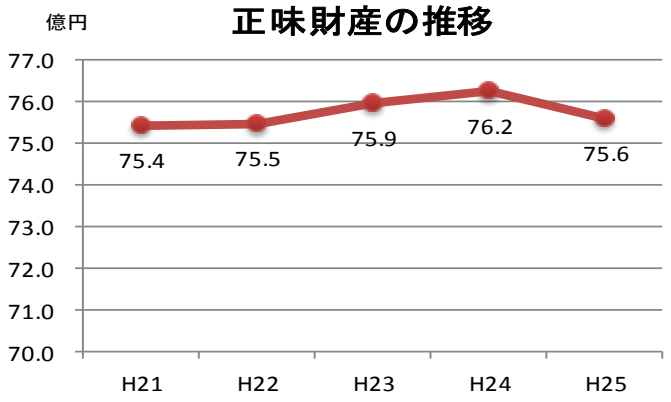
（単位：%）

区分			23年度	24年度	25年度	評	24年度		分類
分類	比率	算式（×100）	（短大）［中高］	（短大）［中高］	（短大）［中高］		全国平均		
貸借対照表関係比率	自己資金構成比率	自己資金／総資金	88.9	91.7	91.9	△	88.8		自己資金は充実されているか
	消費収支差額構成比率	消費収支差額／総資金	△ 40.6	△ 43.6	△ 45.1	△	△ 14.6		
	基本金比率	基本金／基本金要組入額	97.9	100.0	99.9	△	98.0		
	固定比率	固定資産／自己資金	104.4	101.9	101.7	▼	95.9		長期資金で固定資産は賄われているか
	固定長期適合率	固定資産／自己資金＋固定負債	100.7	98.6	98.5	▼	90.4		
	固定資産構成比率	固定資産／総資産	92.8	93.5	93.5	▼	85.2		資産構成はどうなっているか
	流動資産構成比率	流動資産／総資産	7.2	6.5	6.5	△	14.8		
	減価償却比率	減価償却累計額（図書を除く）／減価償却資産取得価額（〃）	36.3	38.7	40.5	～	49.9		
	流動比率	流動資産／流動負債	91.7	125.7	127.6	△	275.9		負債に備える資産が蓄積されているか
	前受金保有率	現金預金／前受金	109.1	100.3	84.6	△	420.5		
	退職給与引当預金率	退職給与引当特定預金／退職給与引当金	93.2	101.4	106.7	△	60.0		
	固定負債構成比率	固定負債／総資金	3.3	3.1	3.0	▼	5.8		負債の割合はどうか
	流動負債構成比率	流動負債／総資金	7.8	5.2	5.1	▼	5.4		
	総負債比率	総負債／総資産	11.1	8.3	8.1	▼	11.2		
	負債比率	総負債／自己資金	12.5	9.0	8.8	▼	12.6		
消費収支計算書関係比率	消費支出比率	消費支出／帰属収入	98.2 (89.8) ［97.5］	98.9 (103.1) ［96.9］	102.5 (108.9) ［99.4］	▼	短大	中・高	経営状況はどうか
	学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金／帰属収入	58.3 (66.8) ［55.6］	60.6 (71.9) ［57.6］	60.4 (69.8) ［57.7］	～	62.2	52.5	収入構成はどうなっているか
	補助金比率	補助金／帰属収入	29.0 (17.9) ［33.3］	29.1 (19.6) ［32.3］	29.1 (20.2) ［32.0］	△	25.1	36.8	
	人件費比率	人件費／帰属収入	72.0 (56.1) ［77.8］	73.4 (66.5) ［75.8］	74.1 (68.0) ［75.9］	▼	59.4	64.8	支出構成は適切であるか
	教育研究経費比率	教育研究経費／帰属収入	20.2 (28.6) ［17.3］	21.5 (30.3) ［19.0］	24.1 (34.3) ［21.0］	△	25.1	25.7	
	管理経費比率	管理経費／帰属収入	4.0 (5.1) ［2.3］	3.9 (6.2) ［2.2］	4.2 (6.2) ［2.5］	▼	10.2	5.1	
	借入金等利息比率	借入金等利息／帰属収入	0.0 (0.0) ［0.0］	0.0 (0.0) ［0.0］	0.0 (0.0) ［0.0］	▼	0.4	0.5	
	基本金組入率	基本金組入額／帰属収入	10.7	7.2	0.4	△	10.2	8.4	
	人件費依存率	人件費／学生生徒等納付金	123.6 (84.0) ［139.9］	121.2 (92.5) ［131.4］	122.8 (97.4) ［131.6］	▼	95.5	123.5	収入と支出のバランスはとれているか
	消費収支比率	消費支出／消費収入	110.0 (89.9) ［114.3］	106.5 (118.0) ［100.9］	102.9 (109.4) ［99.7］	▼	107.6	106.2	

評価指標　△：高い値が良い　▼：低い値が良い　～：どちらともいえない

（5） 財　産　目　録

（単位：千円）

一、資　産　総　額	8,219,618
内　1. 基 本 財 産	6,666,258
2. 運 用 財 産	1,553,360
二、負　債　総　額	661,952
三、正　味　財　産	7,557,666

項　　目	数　　量	金　　額
（一） 資　産		**8,219,618**
1. 基 本 財 産		**6,666,258**
（ア） 土　　地	91,429.86 ㎡	865,121
（イ） 建　　物	39,650.03 ㎡	4,666,572
（ウ） 構　築　物	191 点	784,721
（エ） 図　　書	94,631 冊	213,316
（オ） 教育研究用機器備品	14,787 点	124,178
（カ） その他機器備品	146 点	6,064
（キ） 車　　輌	7 台	6,286
2. 運 用 財 産		**1,553,360**
（ア） 現金及び預金		243,440
（イ） 修学旅行費預り資産		55,567
（ウ） 卒業諸費預り資産		5,544
（エ） 未 収 入 金		189,639
（オ） 借　地　権	1 点	2,258
（カ） 電 話 加 入 権	15 基	1,286
（キ） 施 設 利 用 権	3 点	821
（ク） 差 し 入 れ 保 証 金		350
（ケ） 有 価 証 券	48,217.00 株	2,854
（コ） 土　　地	61,913.00 ㎡	29,919
（サ） 退職給与引当特定資産		261,009
（シ） 長期火災保険特定資産		112,478
（ス） 施設設備拡充引当特定資産		594,750
（セ） 長 期 前 払 金		15,274
（ソ） 前　払　金		436
（タ） 立　替　金		37,737
（二） 負　債		**661,952**
1. 固 定 負 債		**244,630**
（ア） 退職給与引当金		244,630
2. 流 動 負 債		**417,322**
（ア） 未　払　金		39,933
（イ） 前　受　金		287,629
（ウ） 預　り　金		89,760
（1）職員源泉等預り金		28,649
（2）修学旅行費預り金		55,567
（3）卒業諸費預り金		5,544